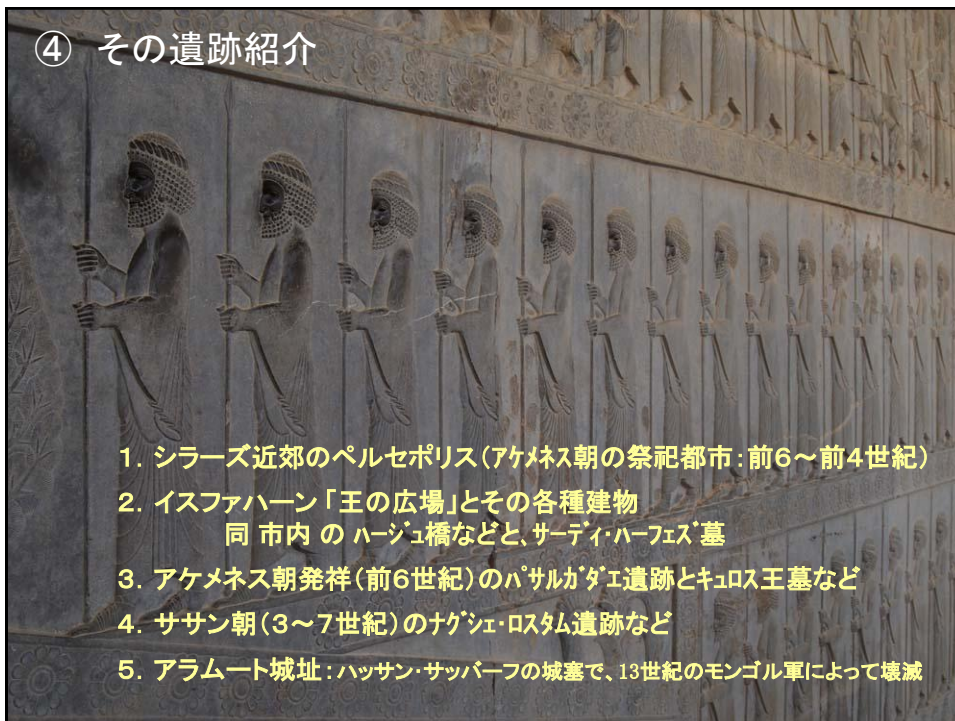


#### ④ その遺跡紹介



1. シラーズ近郊のペルセポリス(アケメネス朝の祭祀都市:前6～前4世紀)
2. イсфаハーン「王の広場」とその各種建物  
同市内のハッシュ橋などと、サーティ・ハーフェス墓
3. アケメネス朝発祥(前6世紀)のハサルガダエ遺跡とキュロス王墓など
4. ササン朝(3～7世紀)のナグシェ・ロスタム遺跡など
5. アラムート城址:ハッサン・サッバーフの城塞で、13世紀のモンゴル軍によって壊滅

#### ④ -1 シラーズ近郊のペルセポリス(アケメネス朝の祭祀都市:前6～前4世紀)



(英版ウィキペディアより)

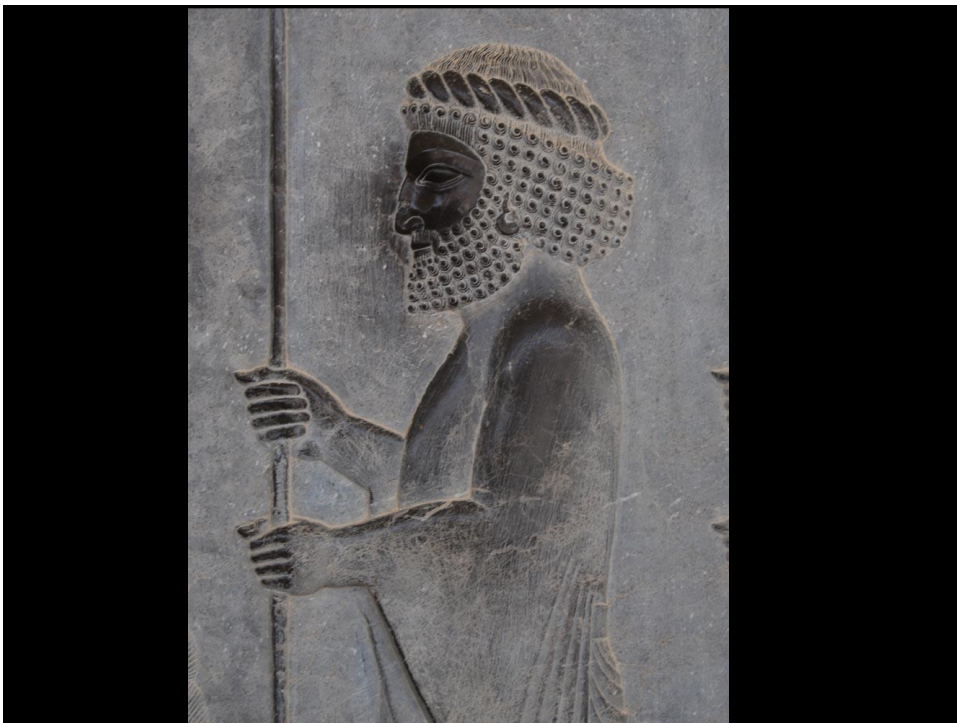














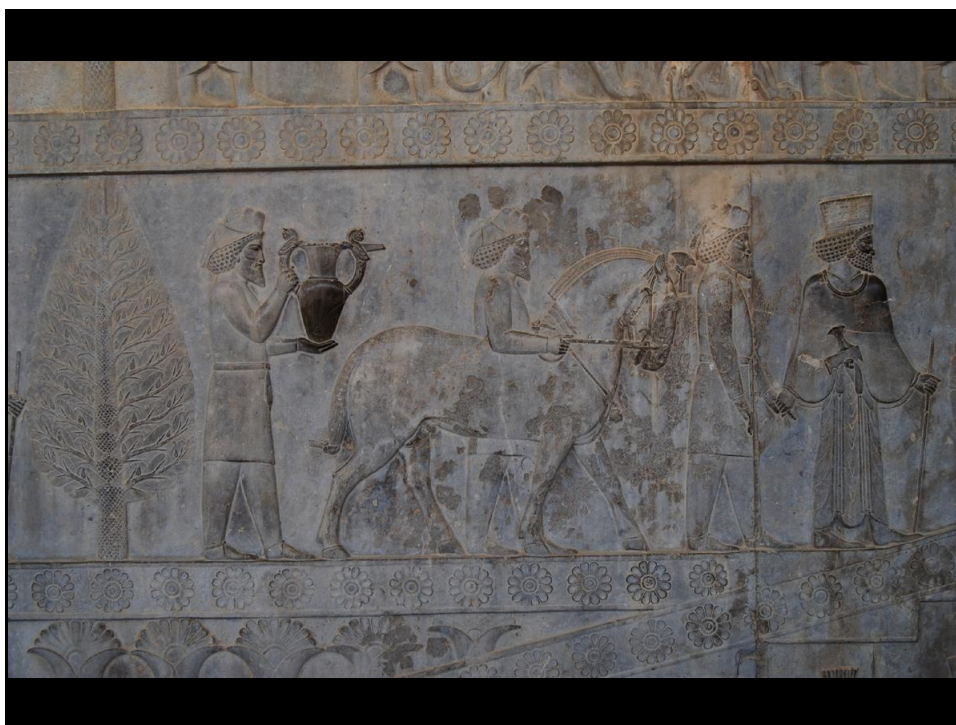
牡牛を襲う獅子。春分頃から太陽の勢いが強まる、季節の変わり目を象徴するという。



次ページに、この上部を。



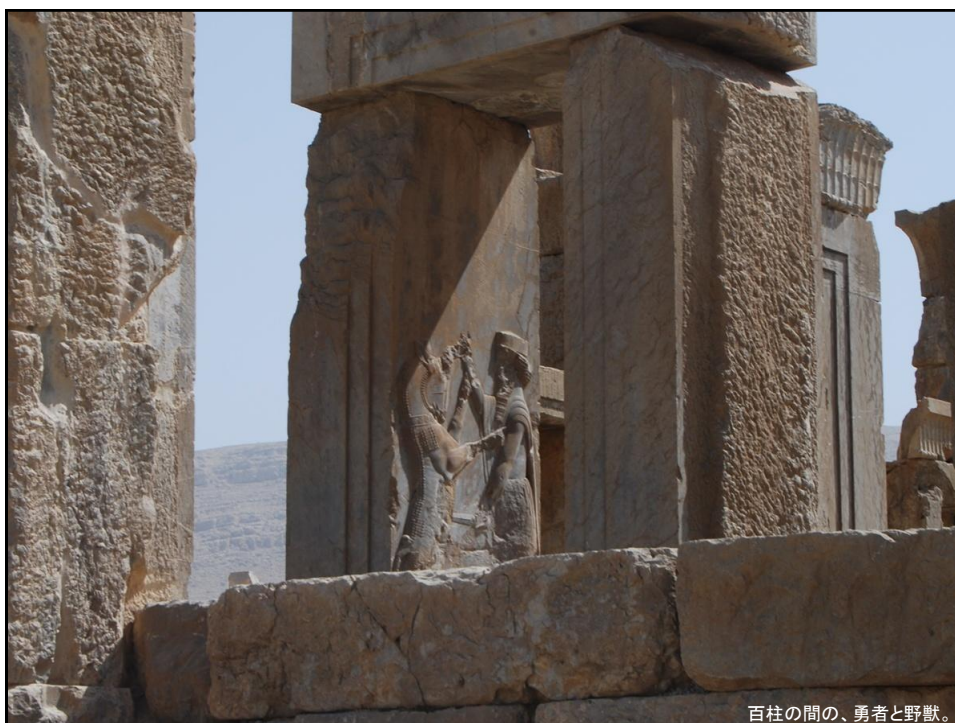








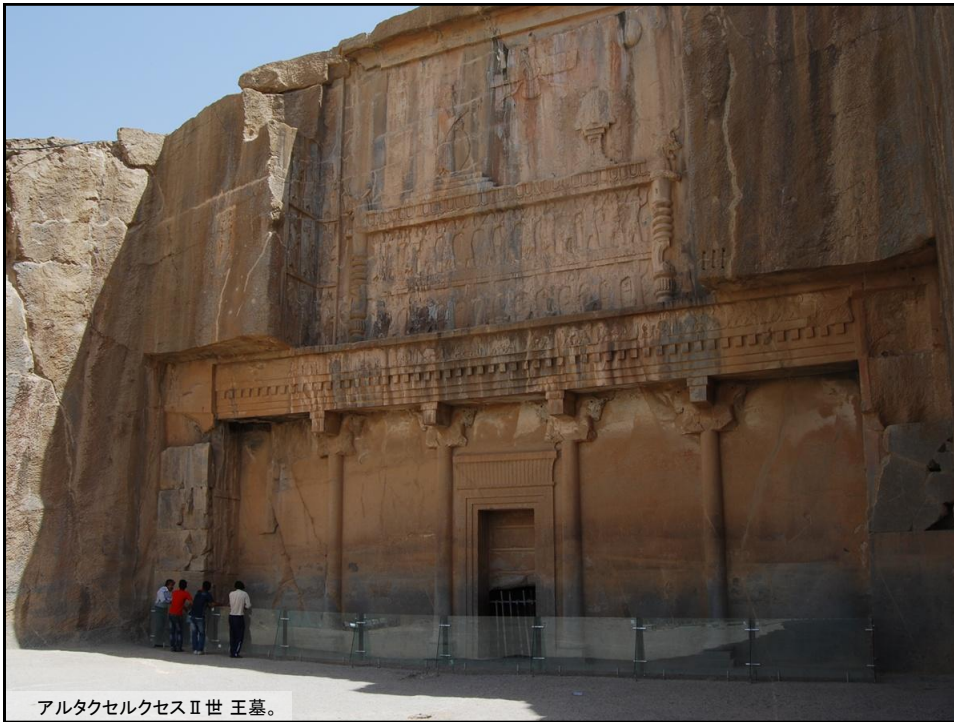
クセルクセス I 世宮殿  
(ハディーシュ)の、大王と侍臣。



百柱の間の、勇者と野獣。



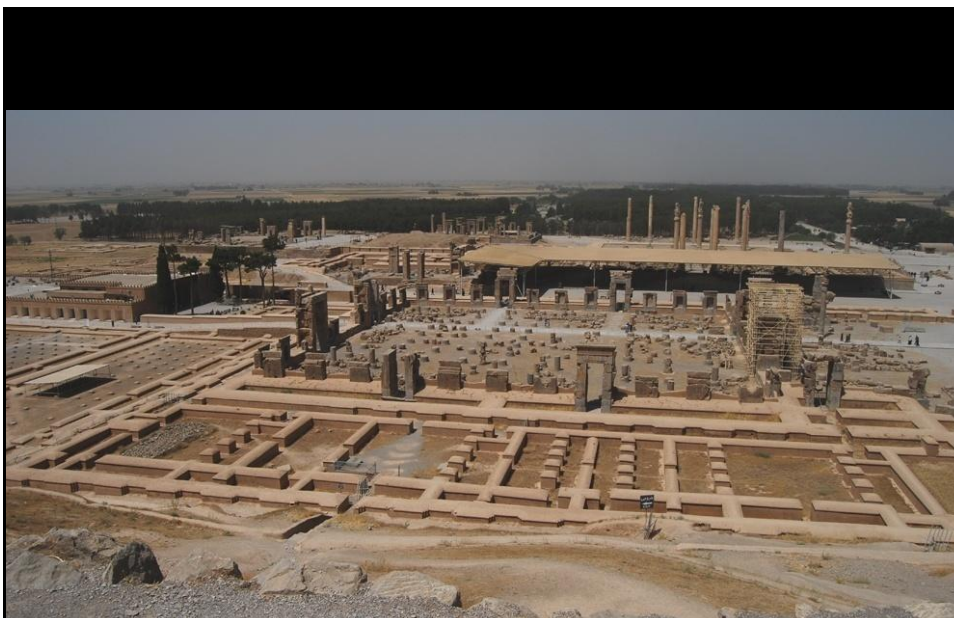
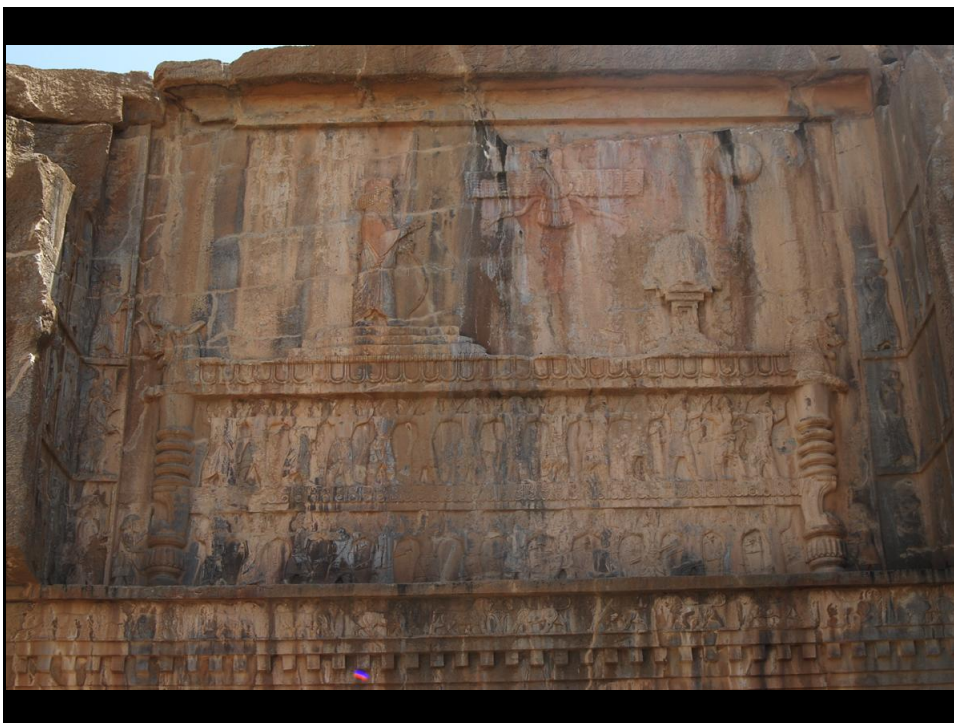
百柱の間より、アルタクセルクセス二世王墓を見る。  
次ページで、その墓室前へ登る。



アルタクセルクセスII世 王墓。



墓のレリーフに見る建物の構造。双頭の鶻像の間に梁が入る。



アルタクセルクセスⅡ世王墓より見たペルセポリス中央部分。手前より、兵営、百柱の間、アバダーナ(謁見の間)。左奥は博物館。その手前は宝庫など。(アバダーナには、ここに見るように、現在は、大きな仮設の屋根がかかっている。)



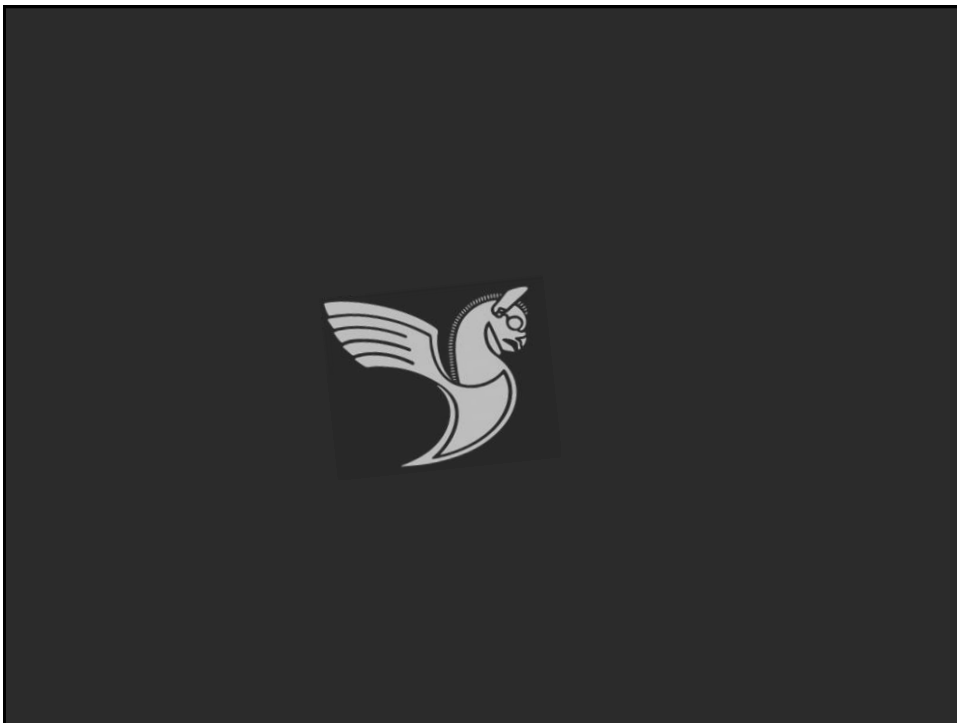
研究者により復元された神殿の構造:石製列柱の上はレバノン杉材で覆かれた屋根。



イラン航空シンボルマークの、双頭の鷲。



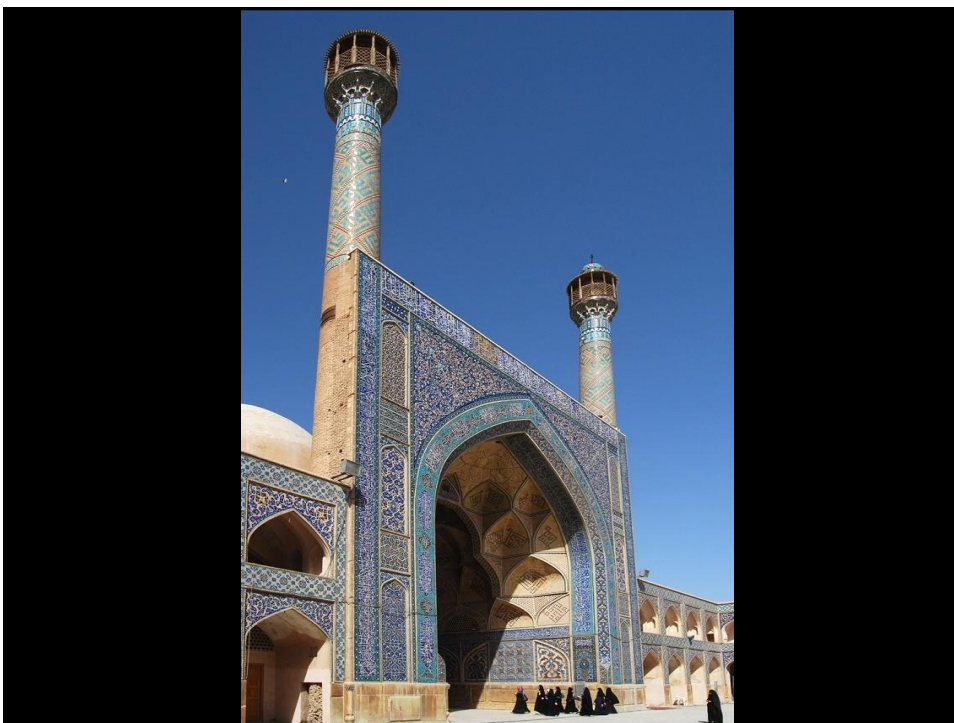
「イラン(ペルシア)の踏査小史とその自然・人々」史料に見る踏査(調査)小史・地政学的位置。  
最高峰デマバンド山の登頂とその自然、遺跡と人々の写真紹介」

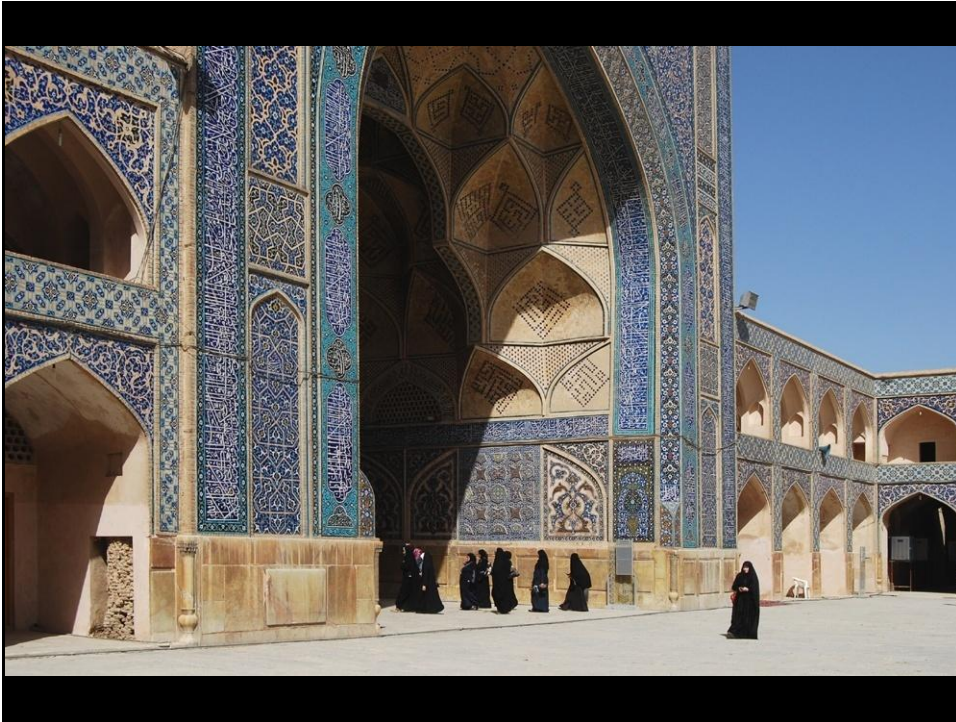


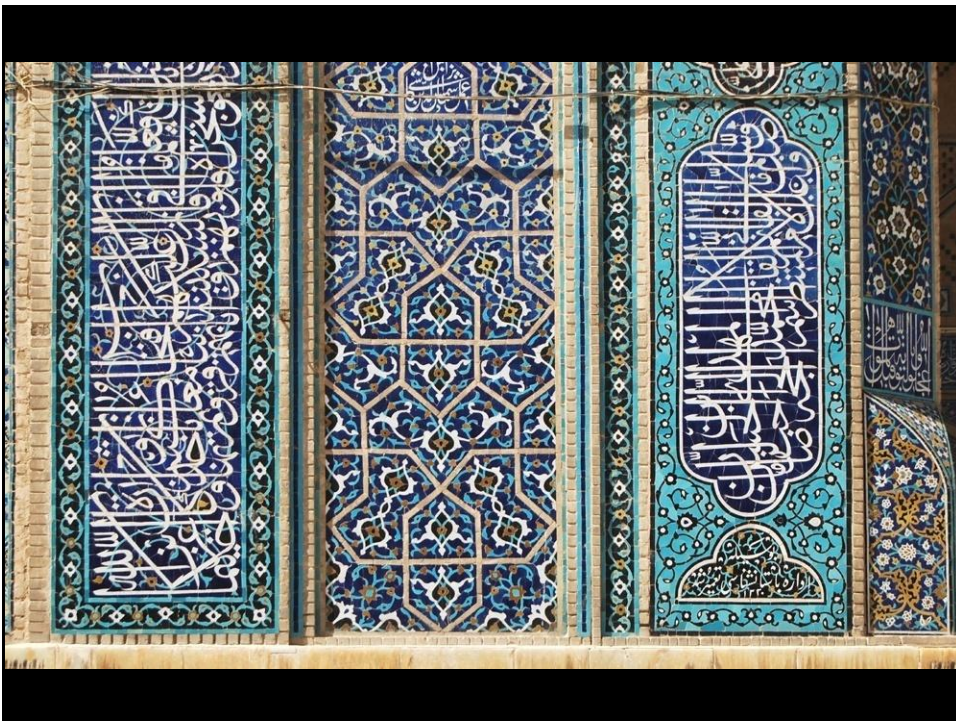
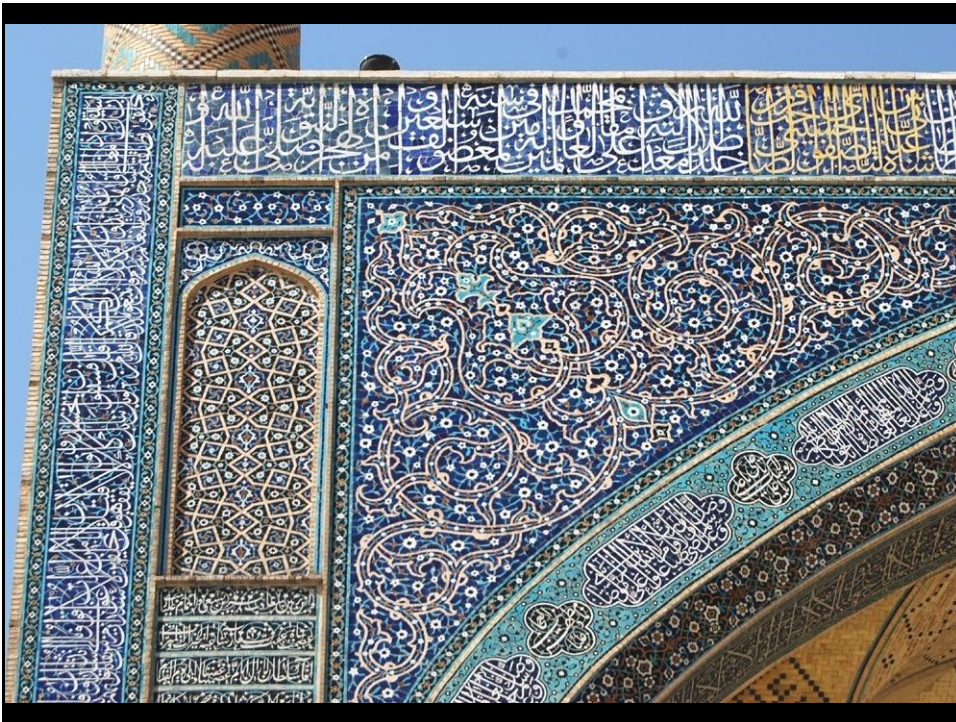
④ -2 イсфаハーン 金曜モスク(マズジェッデ・ジャーメ:旧・王のモスク、現・イマームモスク)  
～ サファビー朝(16世紀初頭～18世紀前半)の、栄華の都 ～

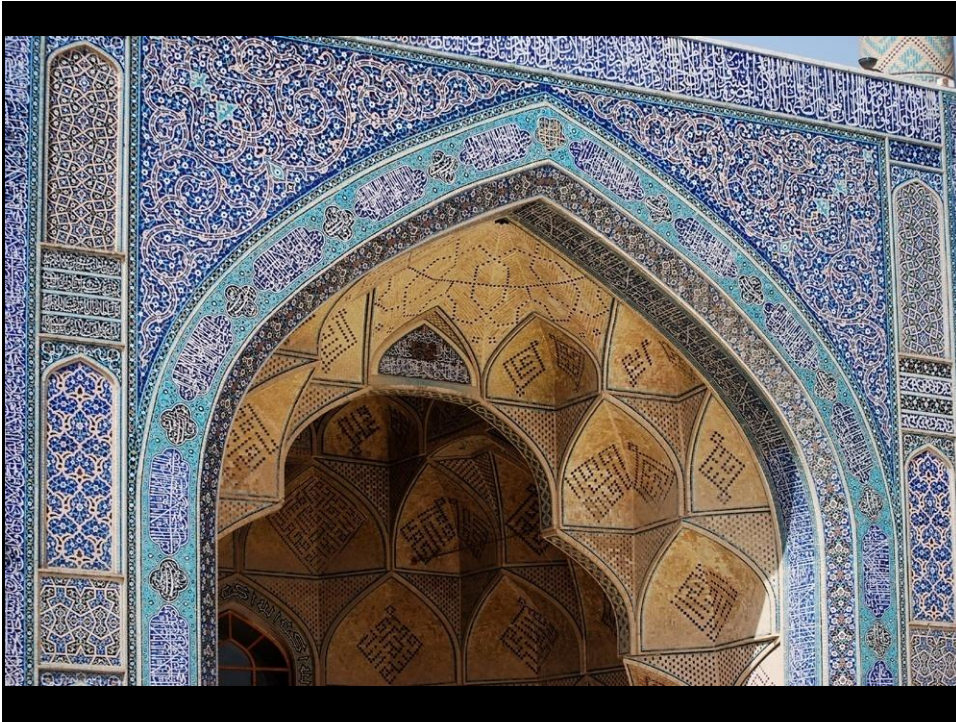


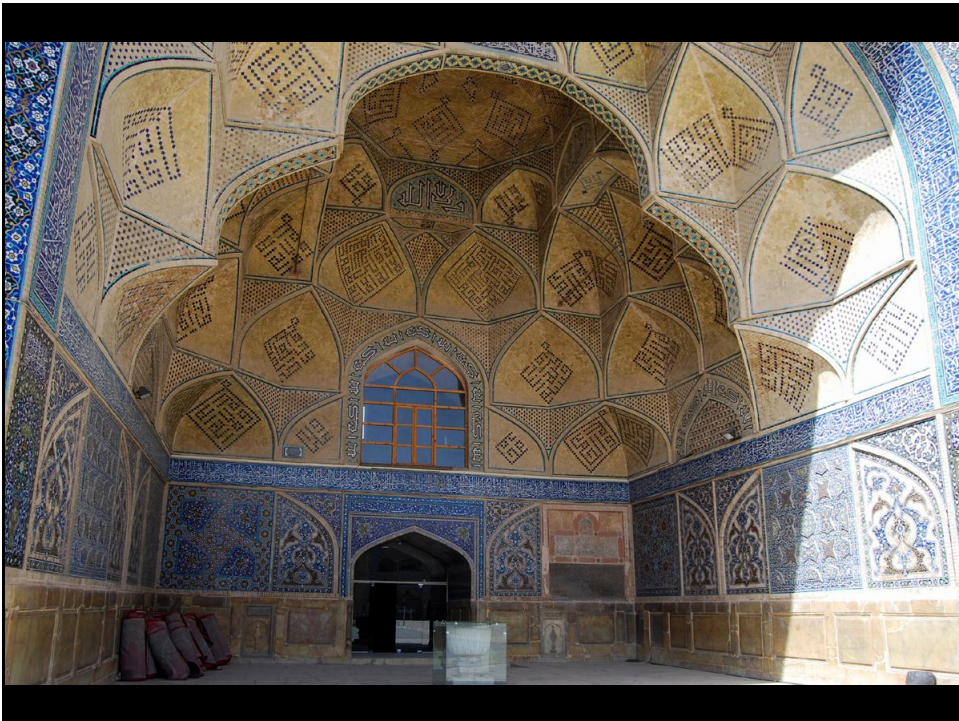
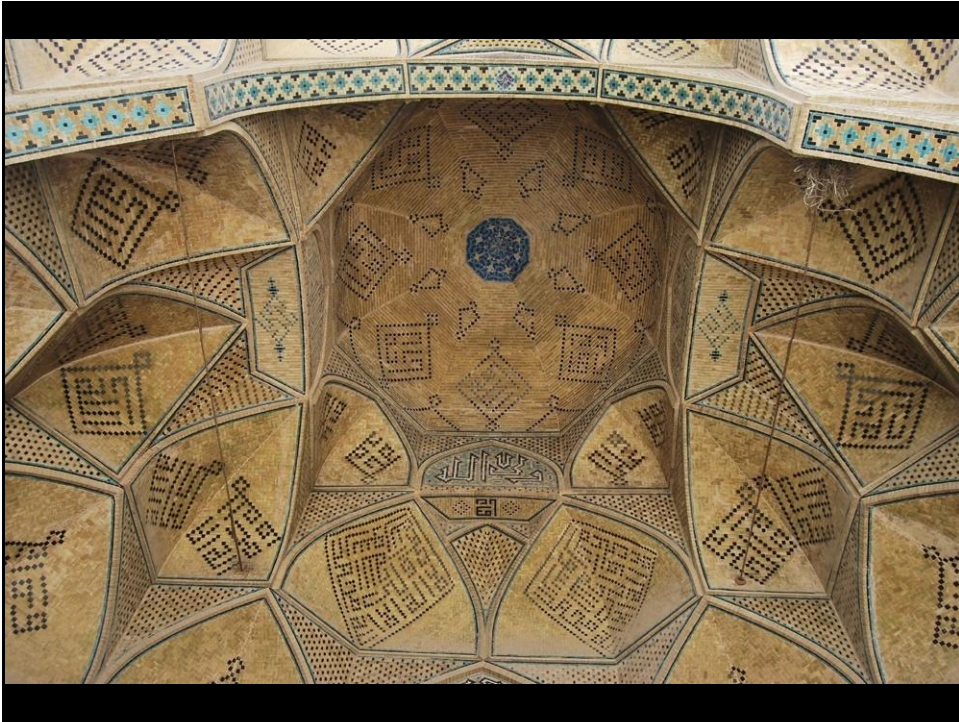
イスファハーンにある現存のモスクでは、最も古いもの。創建は8世紀で、12世紀以降に改築を繰り返す。モンゴル・イルハン朝の13～14世紀、サファヴィー朝時代の16～17世紀にも改修が進められ、「ペルシア・イスラーム建築の博物館」の様相。

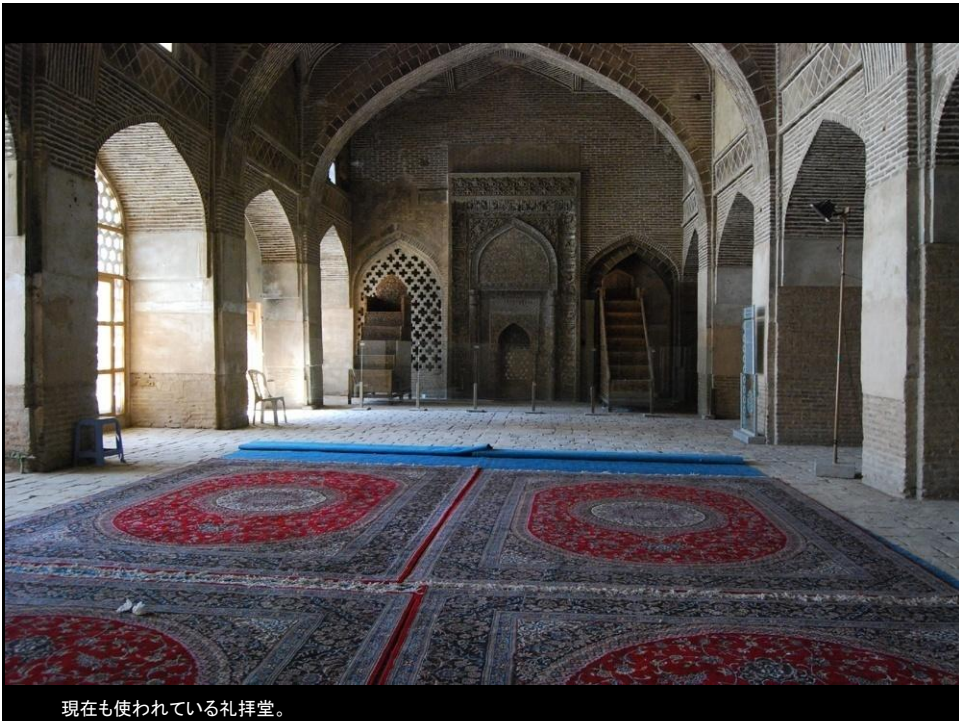








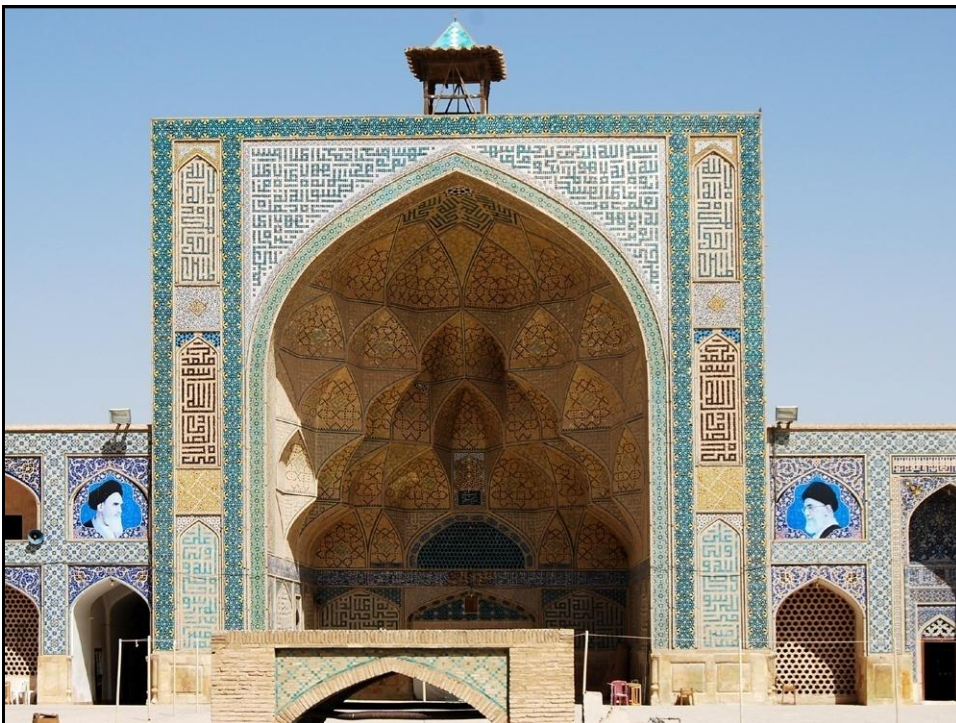


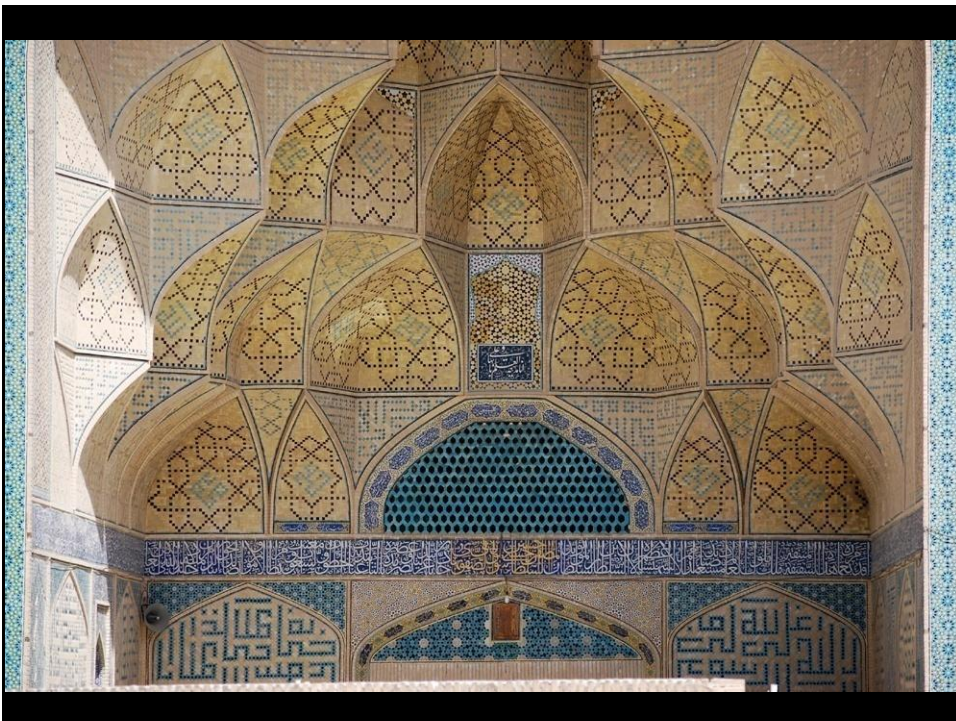
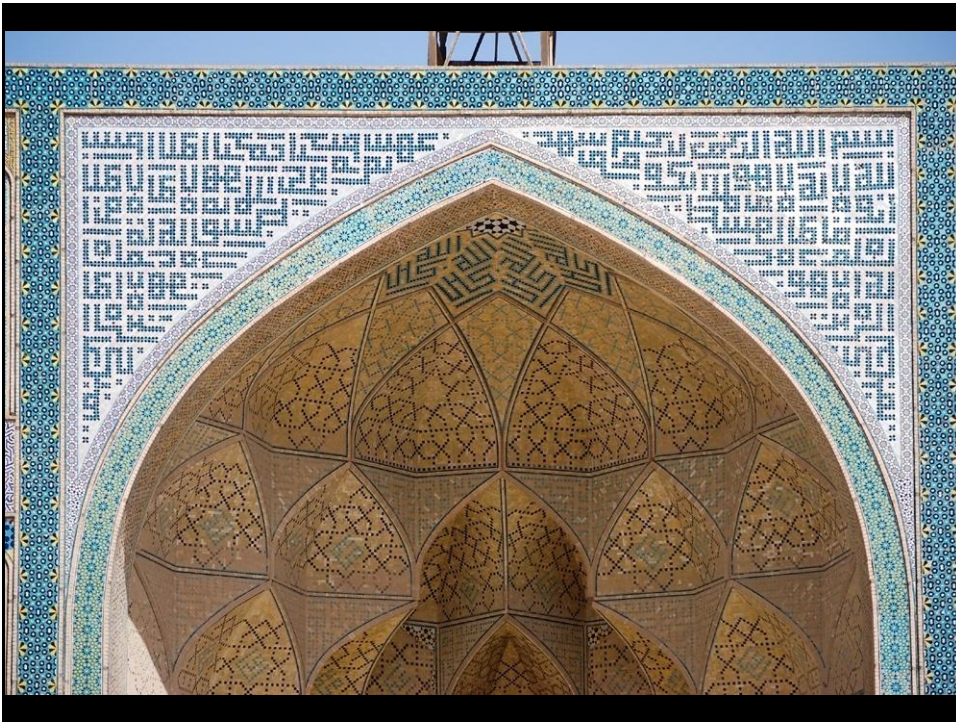


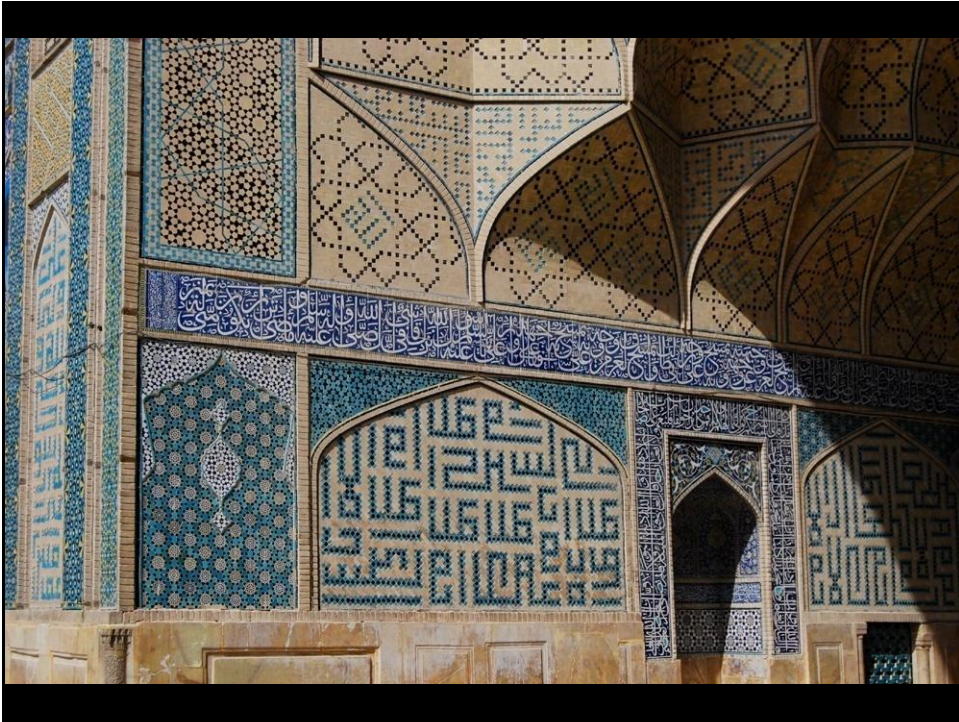
現在も使われている礼拝堂。

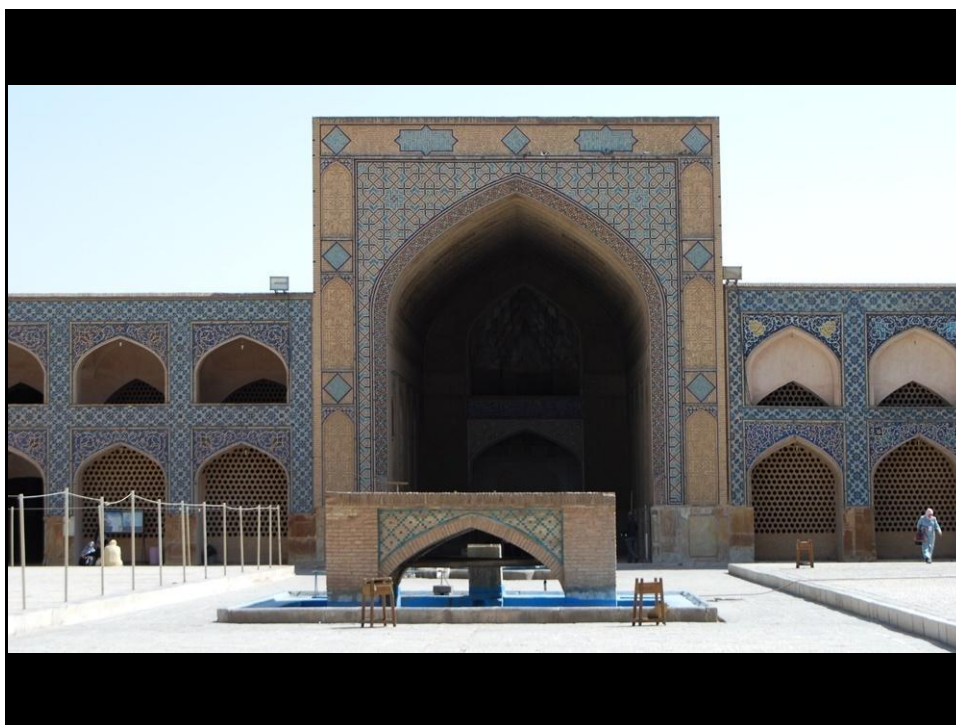


壁面には、ホメイニ師が！？





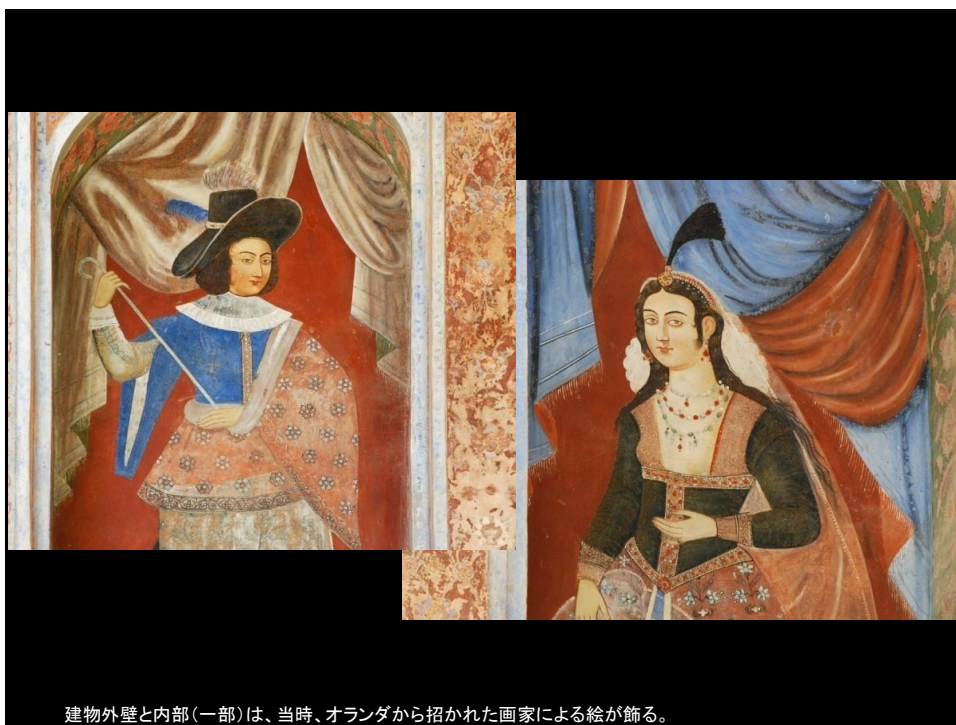


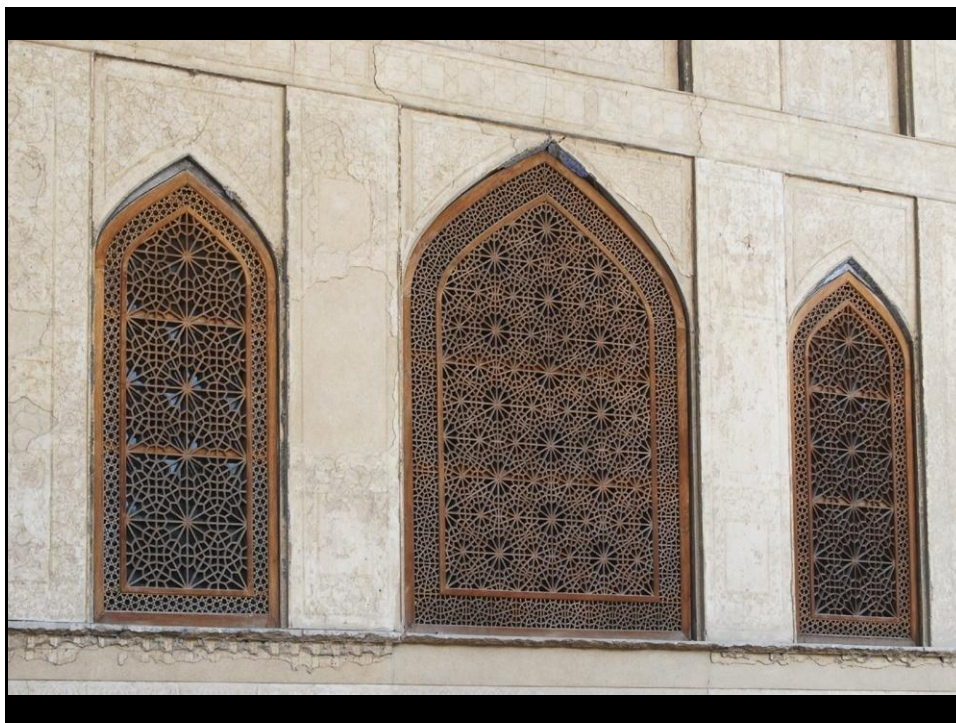


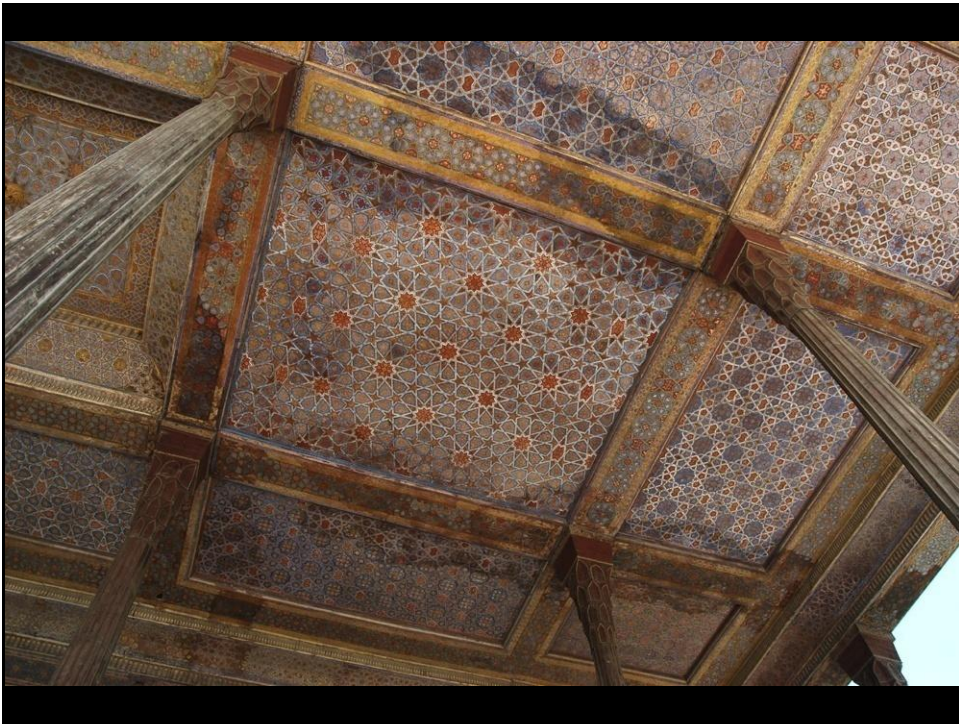
イスファハーン チェヘル・ソトゥーン宮殿(庭園博物館)

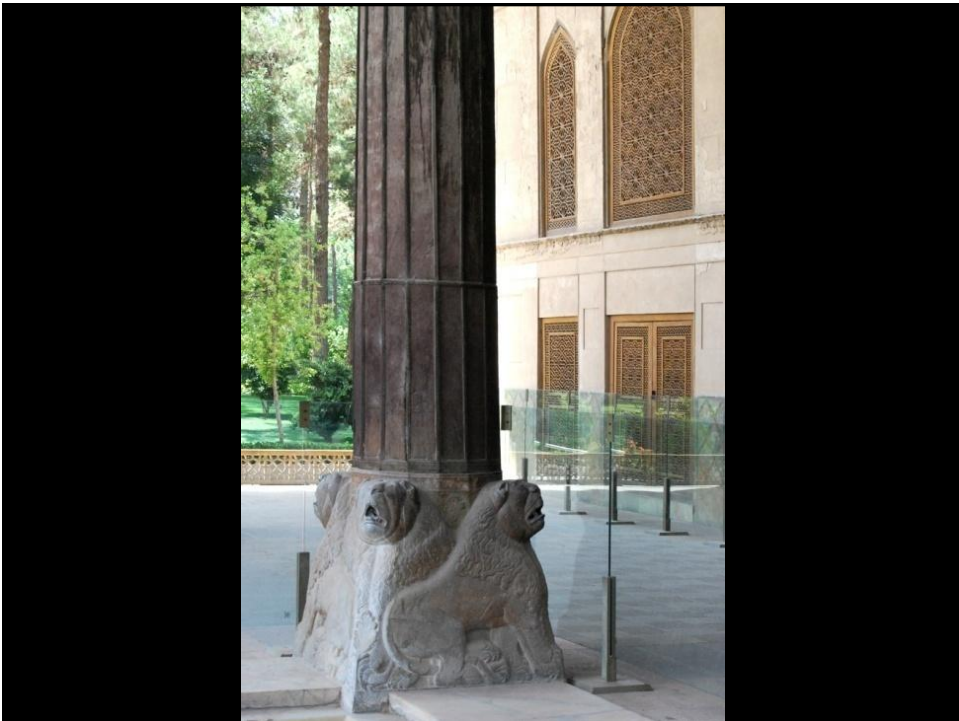


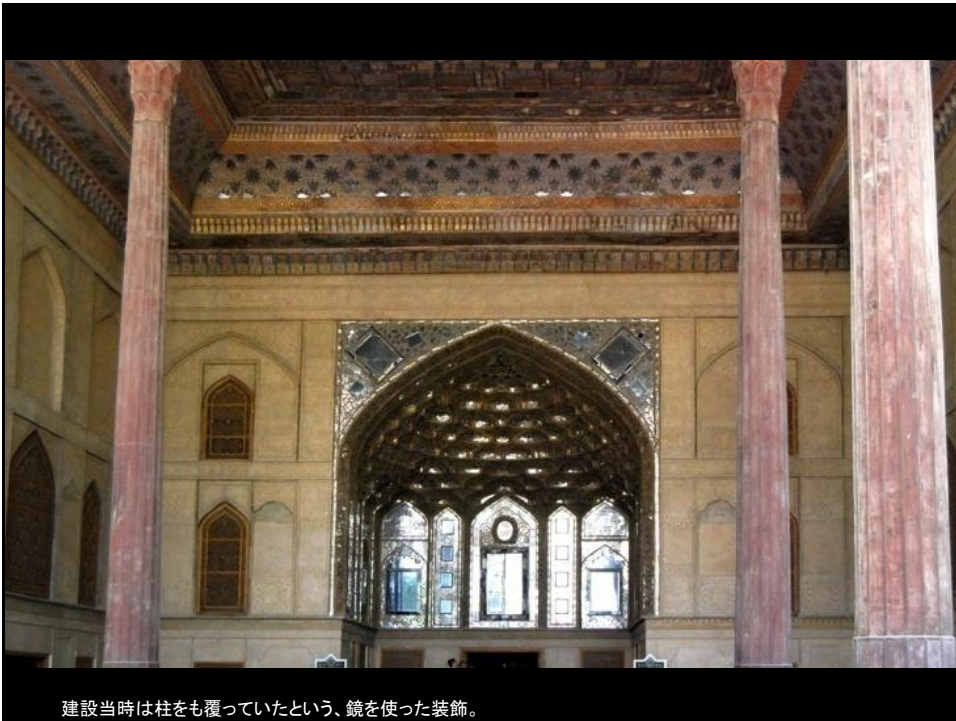
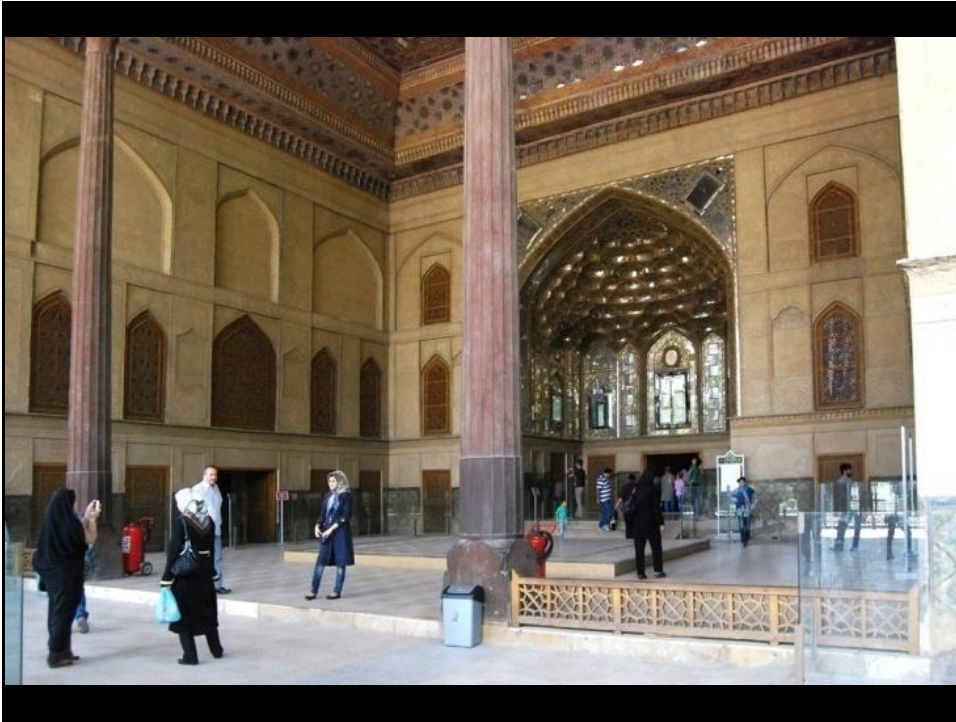
アッバースⅡ世により、1647年に建設。名は、「40の柱」との意だが、これは、20本の柱が水面に映って40本に見えるというもの。











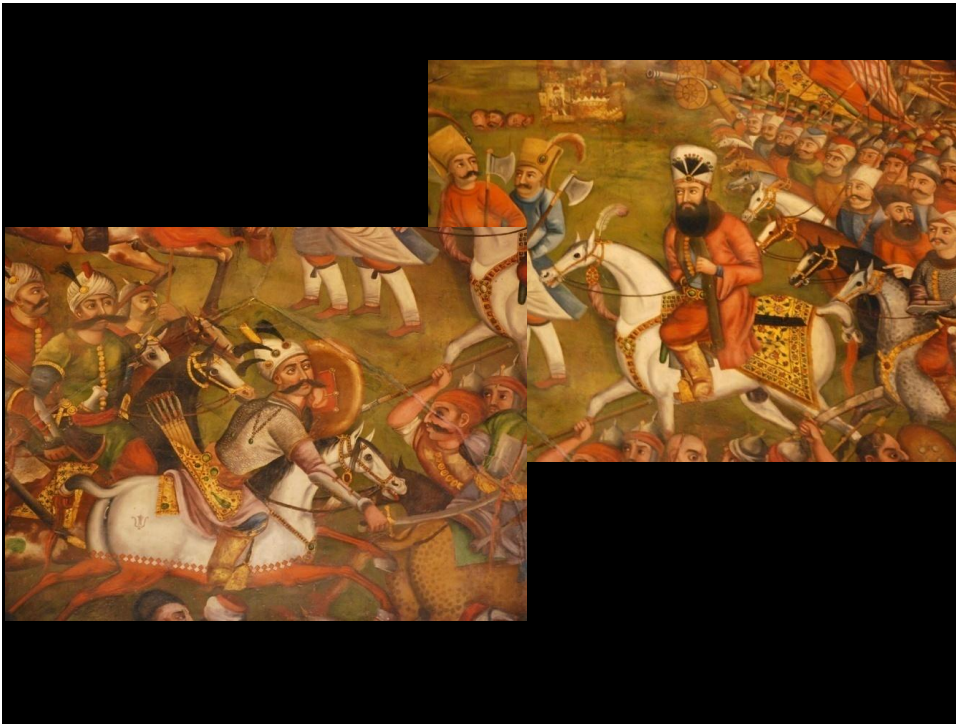
建設当時は柱をも覆っていたという、鏡を使った装飾。

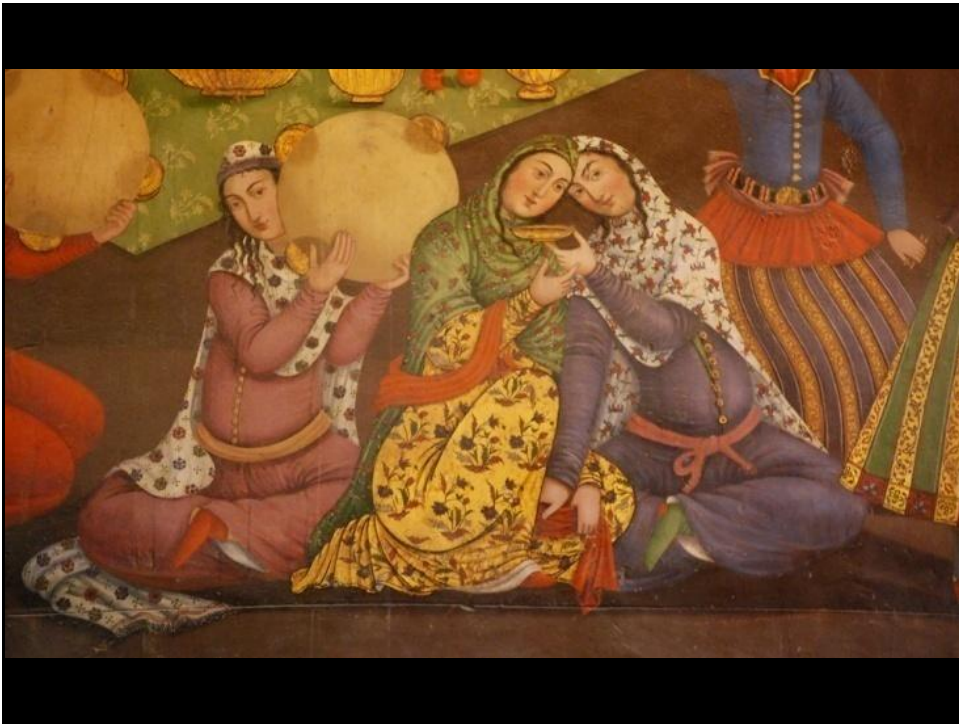




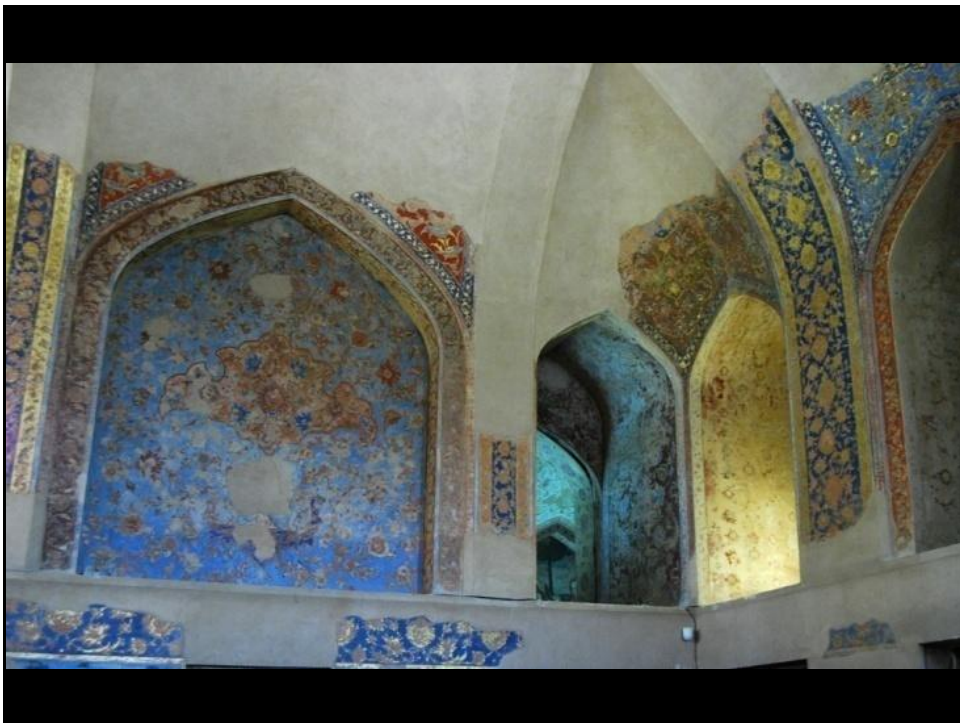
壁面には、サファヴィー朝の栄華を偲ばせる歴史画が。





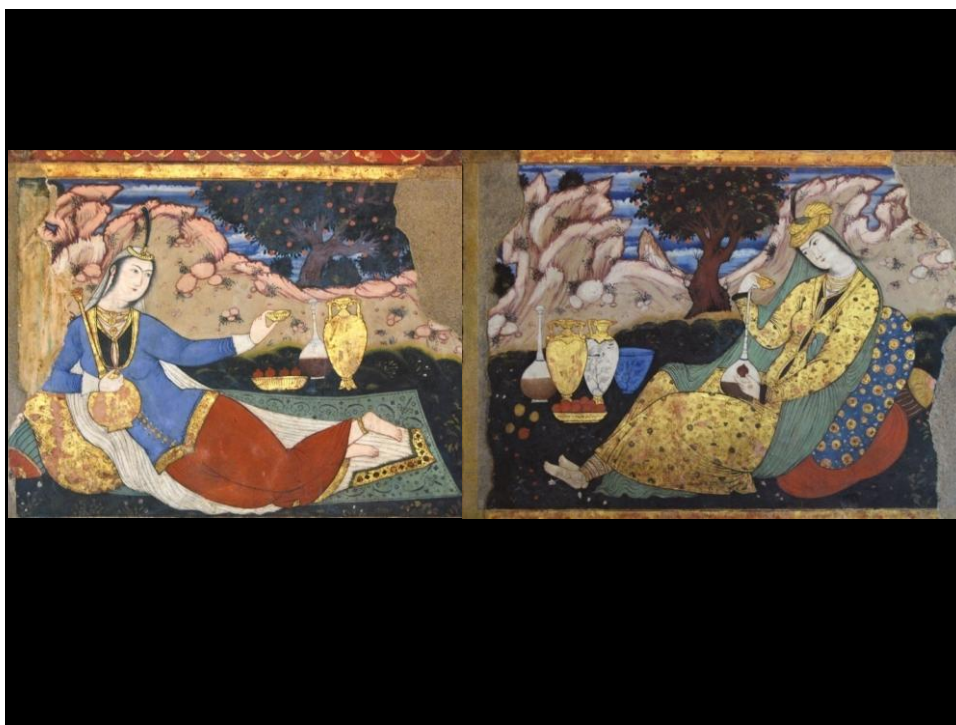


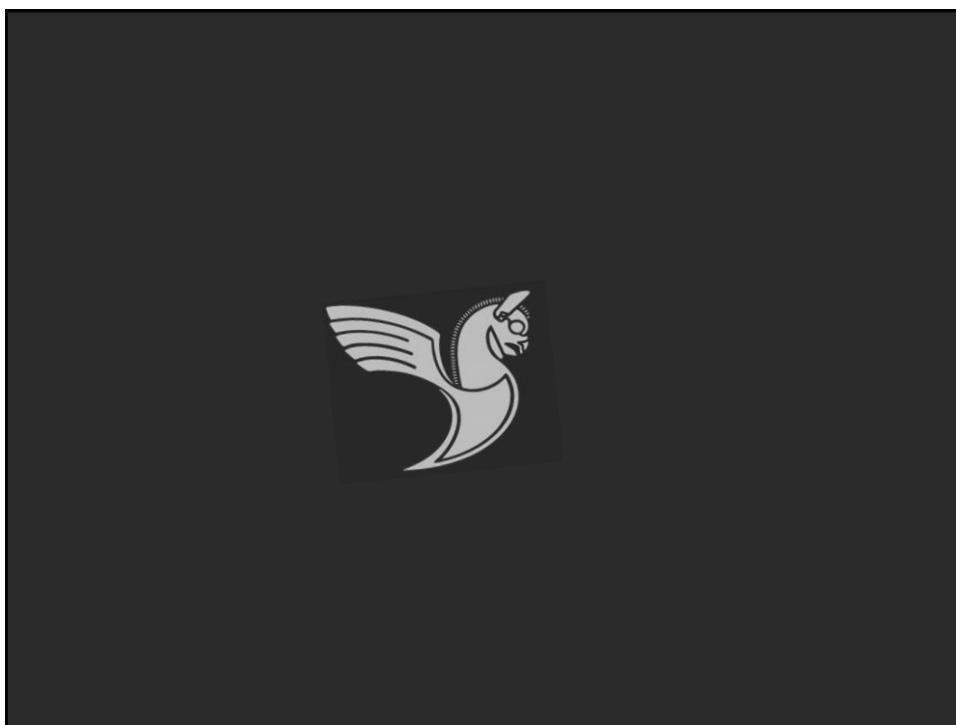






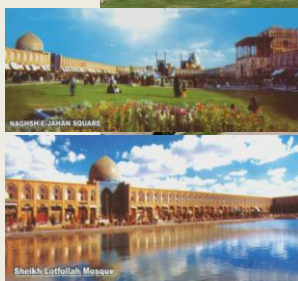
こちらには、伝統的なペルシアの絵も。





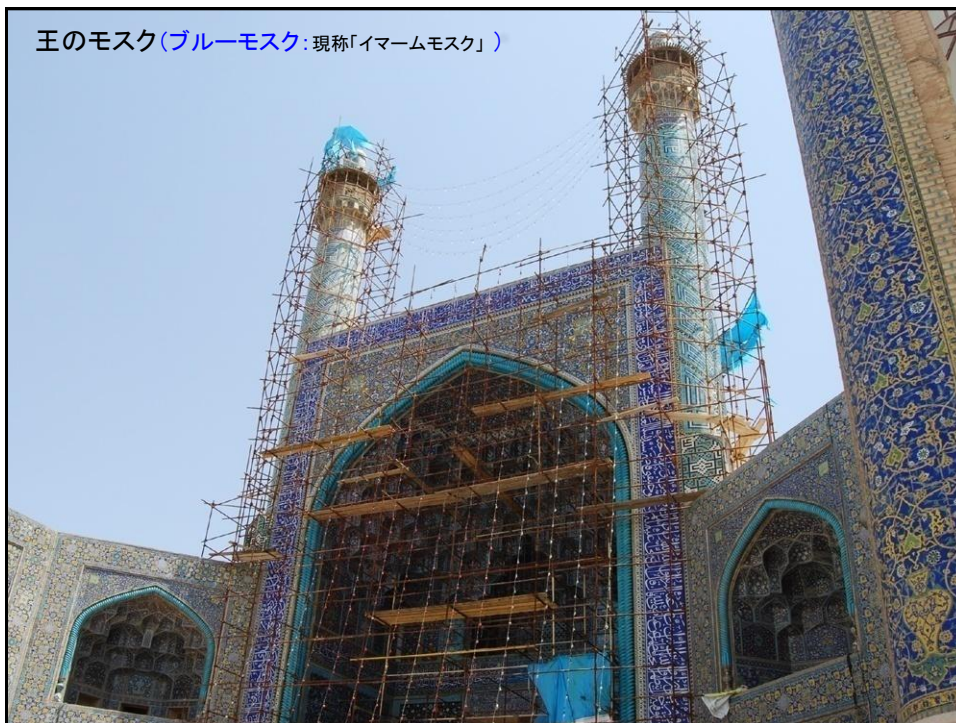
#### ④ -2 イсфаハーン「王の広場」と、その各種建物、市場など

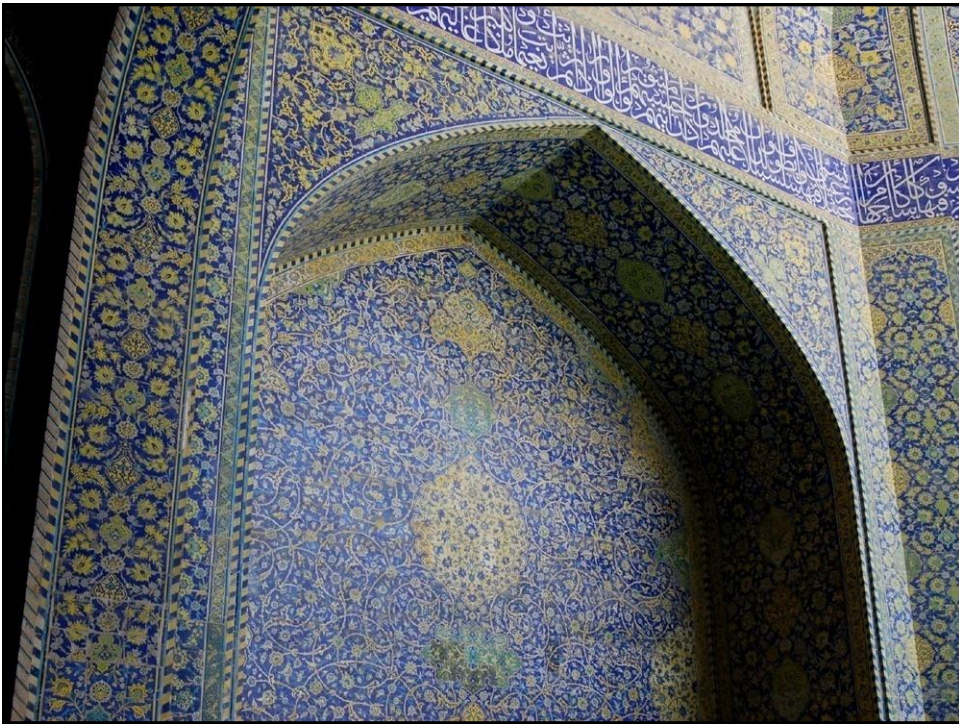
16世紀末、サファヴィー朝のアッバース I 世による

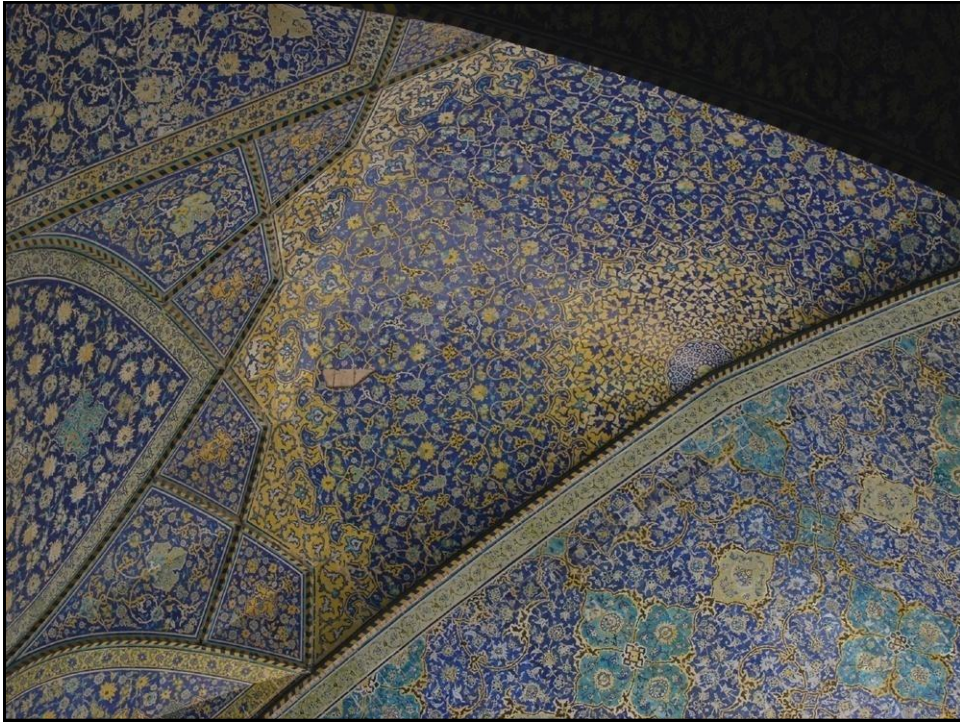


「王の広場」(現称「イマーム広場」)の本来の姿は、左のようらしい。  
(ともに、イсфаハーン・Kowsarホテルのパンフレットより。)  
左は、上写真の正面「ブルーモスク」の左手にある、「シェイフ・ロトフォッラ・モスク」。

#### 王のモスク(ブルーモスク: 現称「イマームモスク」)

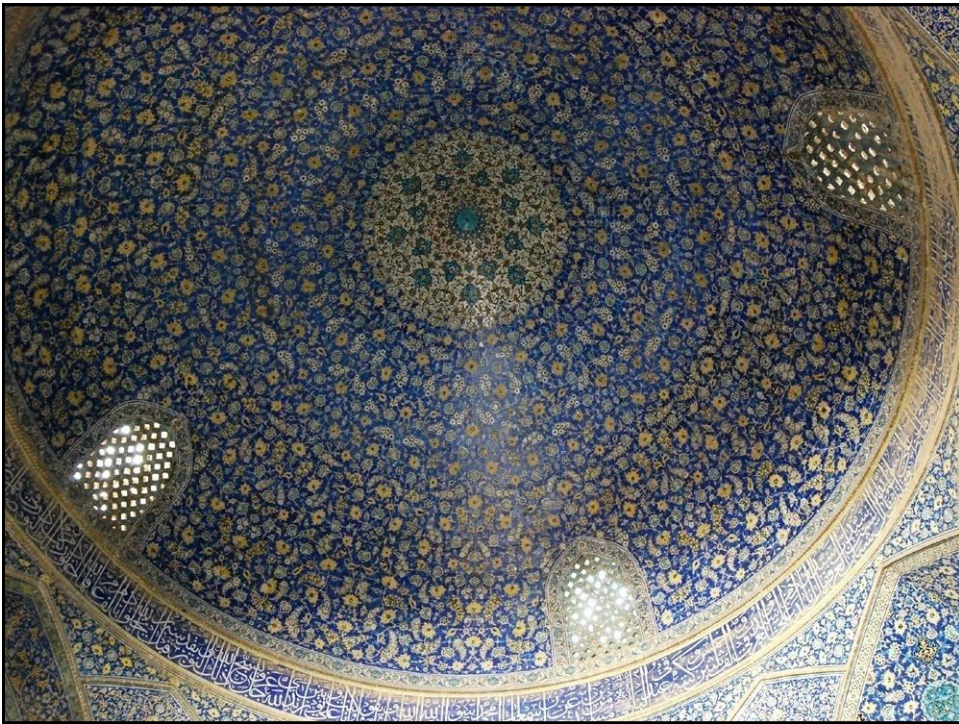
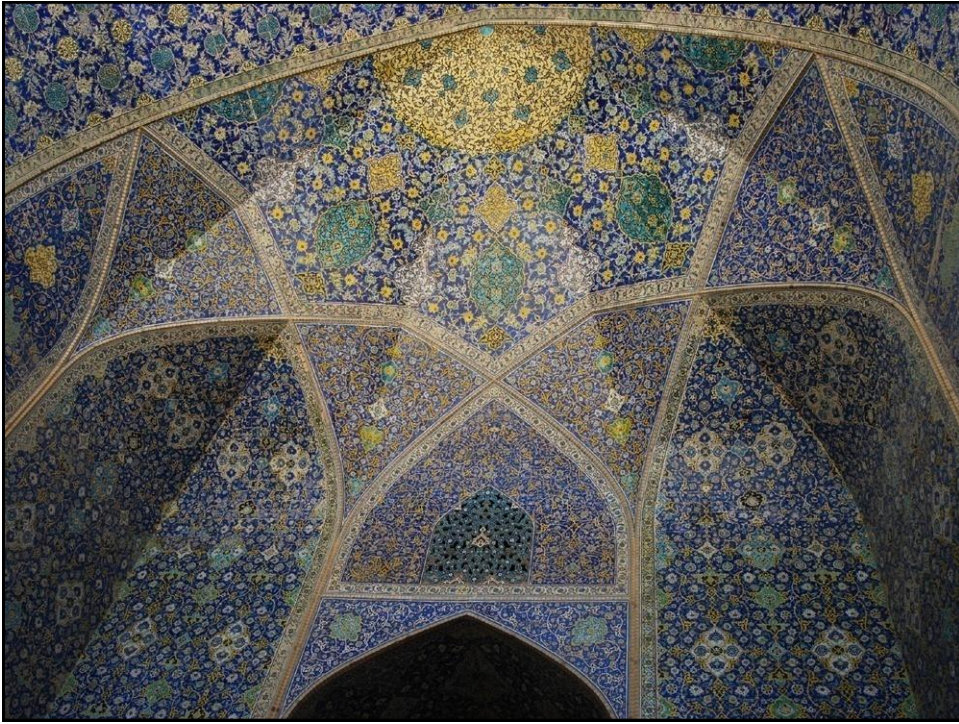


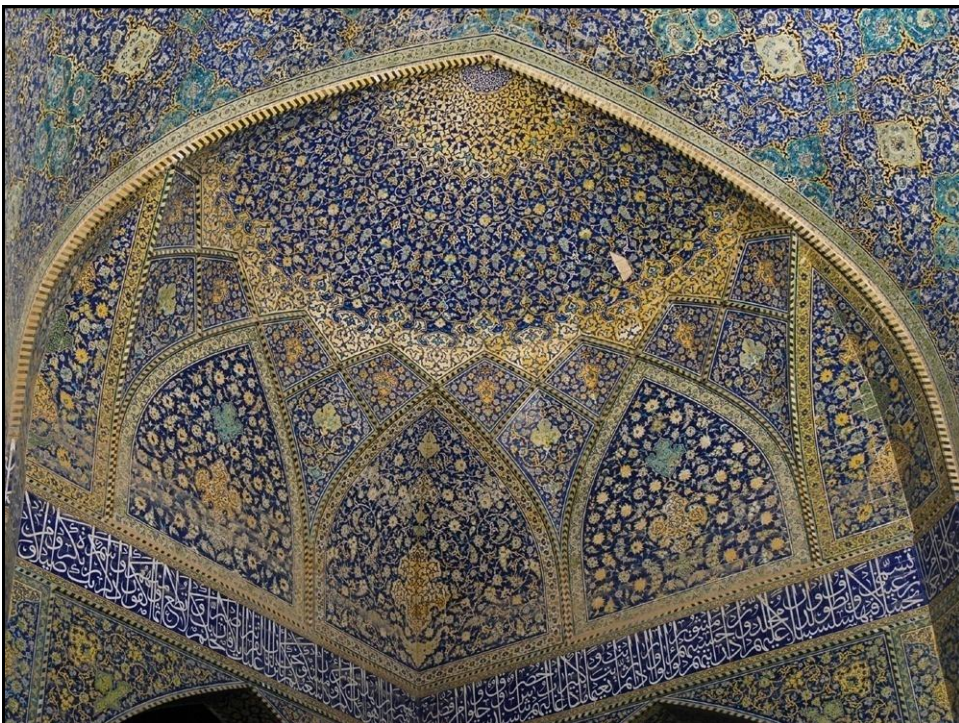
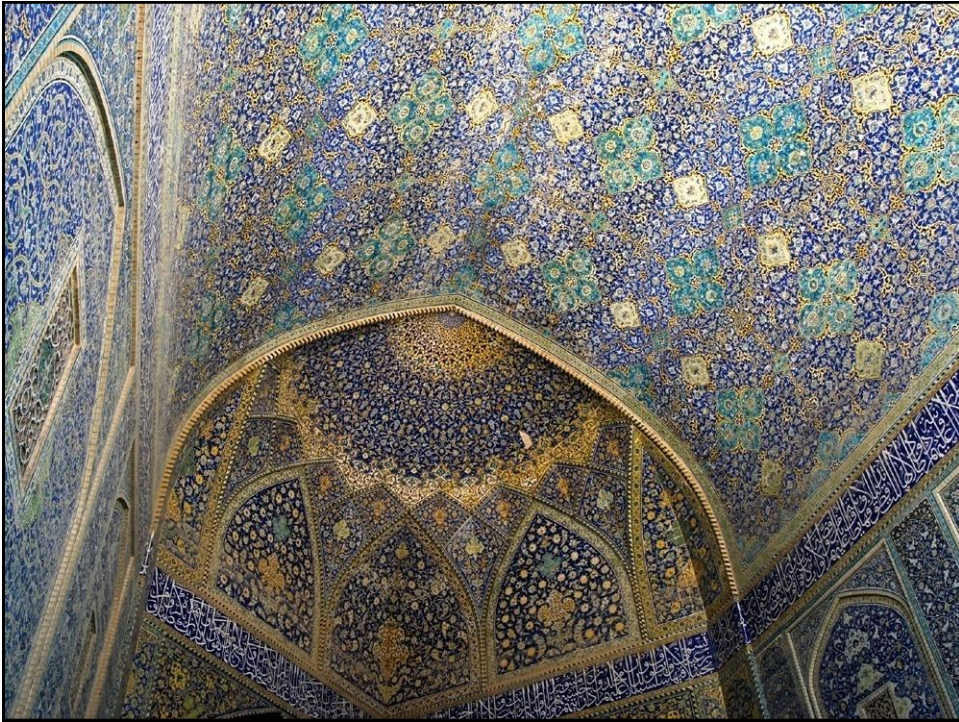




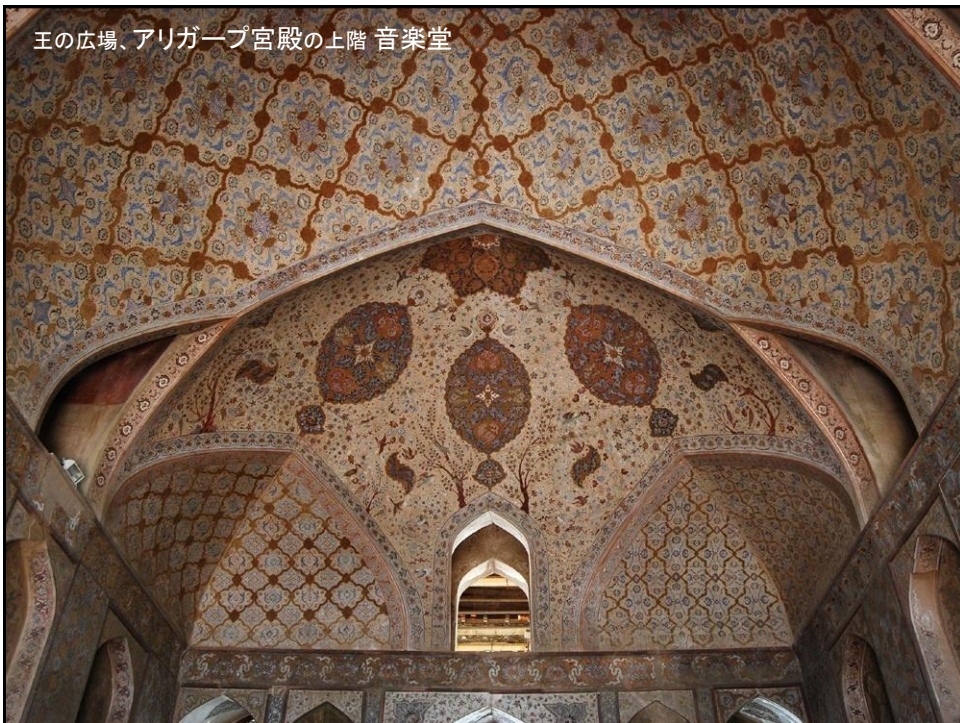
門をくぐって、王のモスクへ。45度斜めには、メッカの方向を向いている。

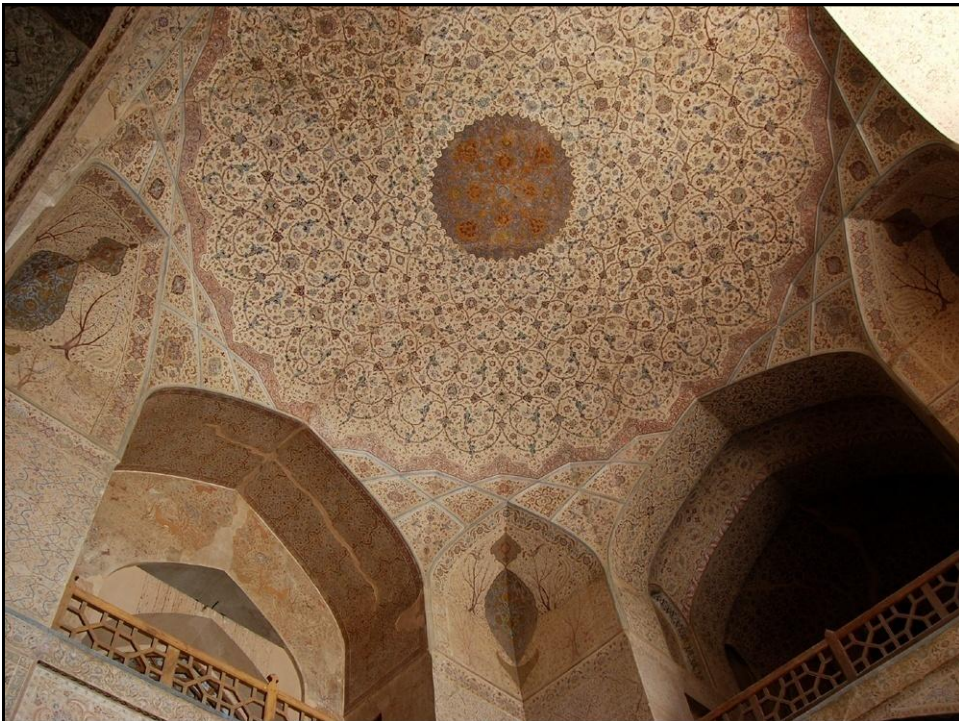
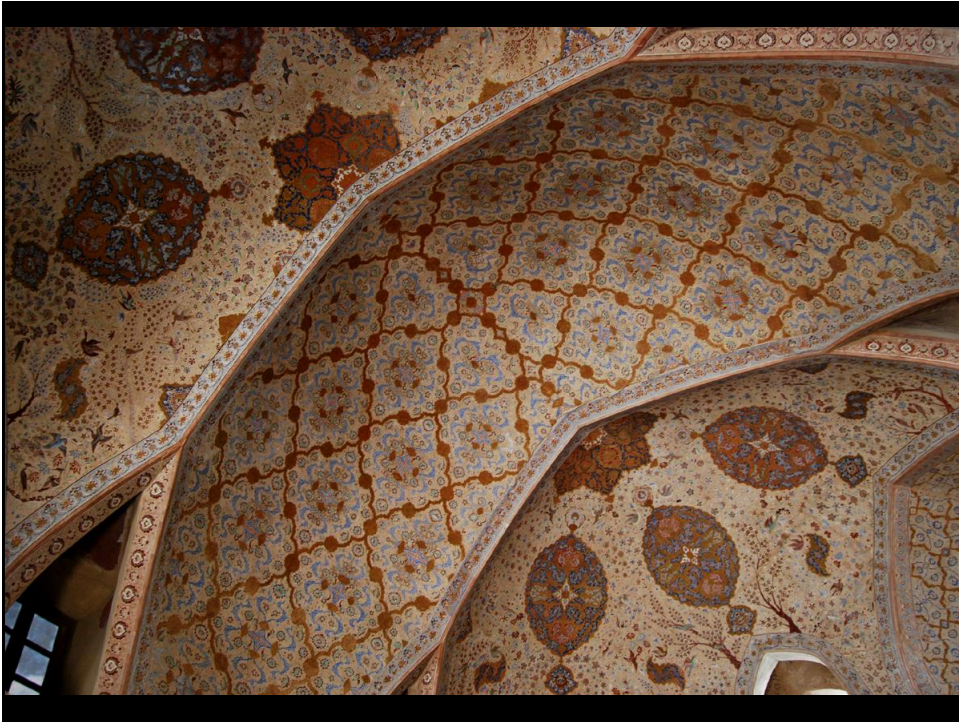


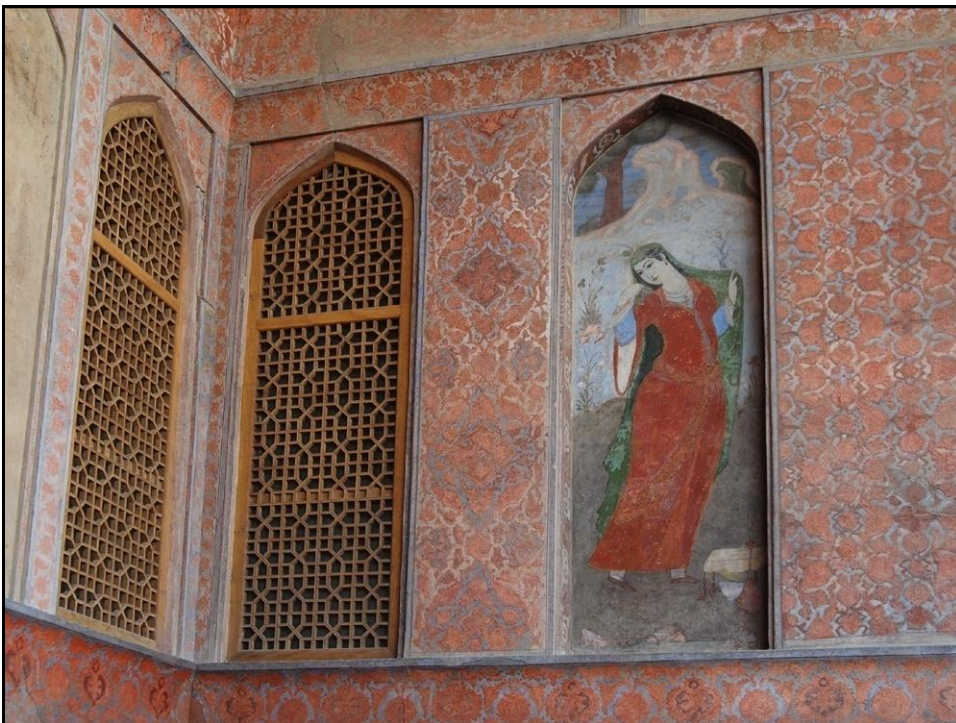








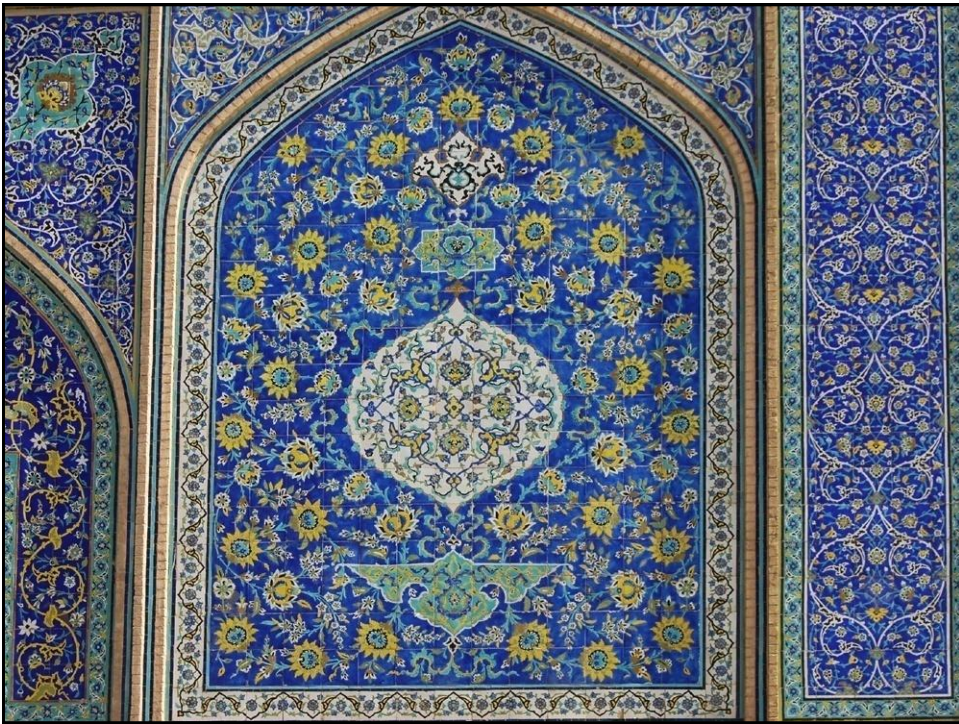
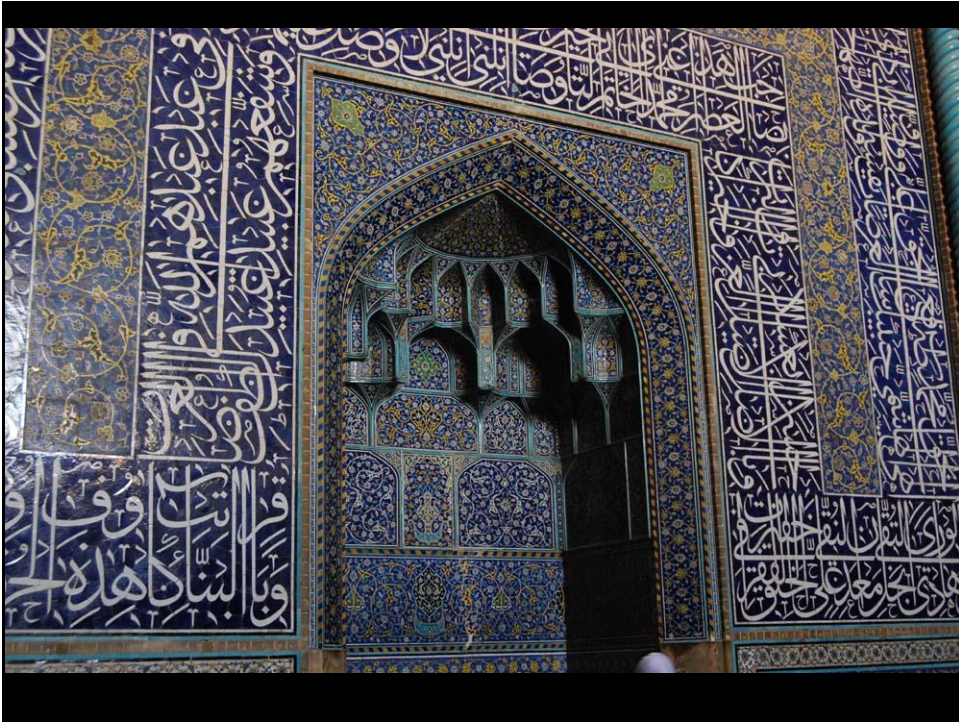


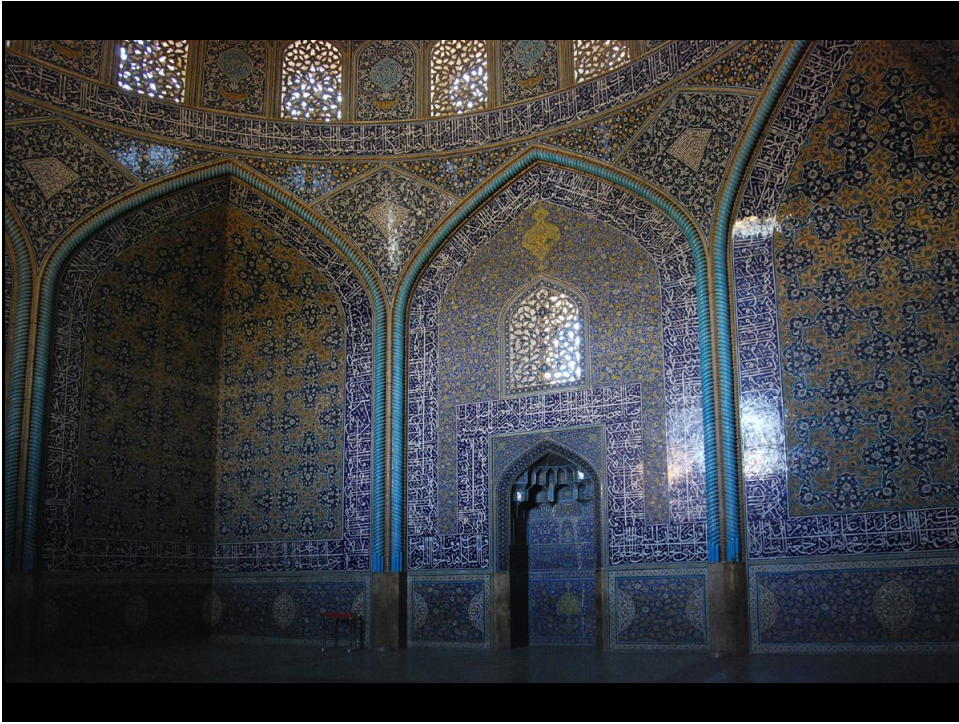




王室用の、小規模な、マスジェド・シェイフ・ロトゥフオッラー。小タイルの組み合わせで絵柄を作る。







天頂部から光が差しているように見えるが、これは、天井曲面での光の反射が見せる現象。



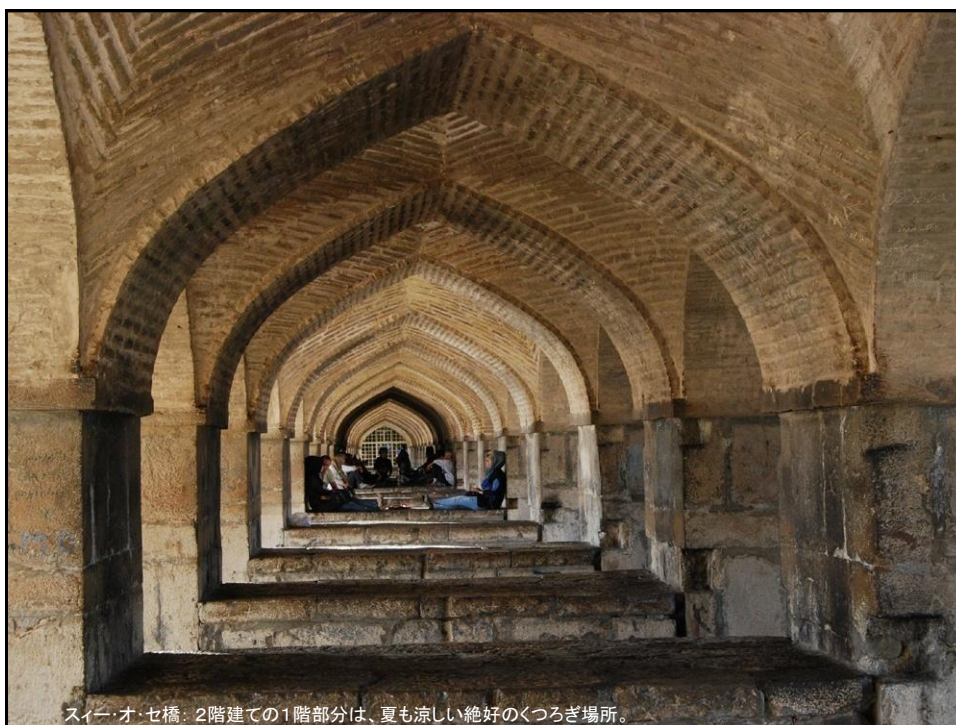
イスファハーン「王の広場」。夏の涼しい夕暮れともなれば、大勢の人々が。



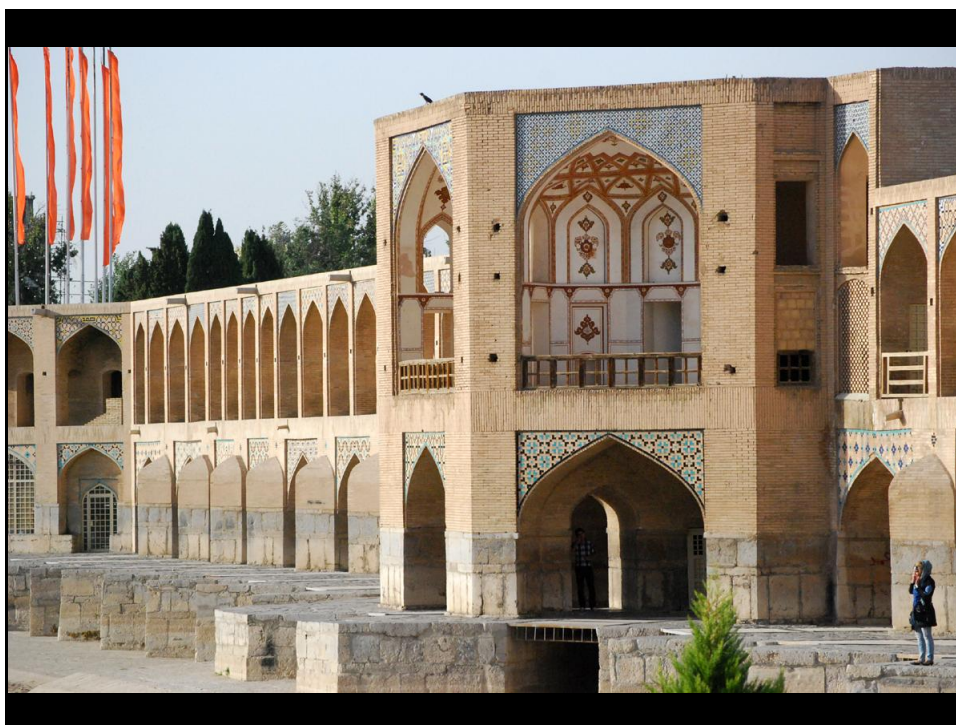
④ -2 つづき イсфаハーン市内 (ハージュ橋などと、サーディ・ハーフェズ墓)と、アルメニア正教会

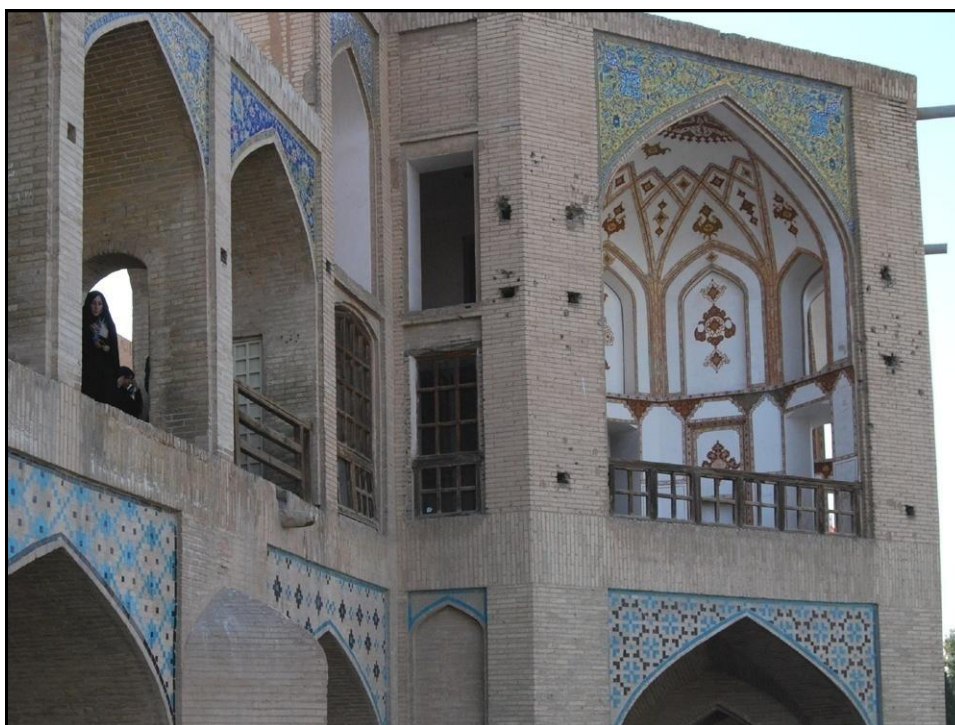


西から東に流れるザーヤンデ河にかかる、スィー・オ・セ橋(33アーチ橋)の上流側。この東2kmにハージュ橋。



スィー・オ・セ橋: 2階建ての1階部分は、夏も涼しい絶好のくつろぎ場所。









以下、ハーजू橋 上部通路の装飾。











アルメニア人居住地区。

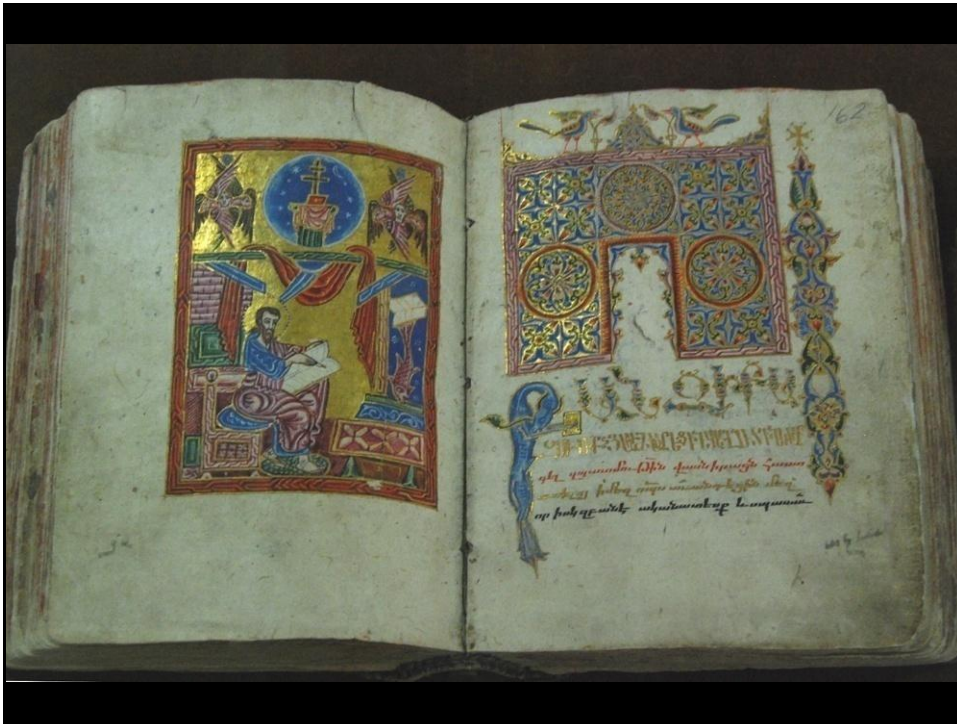




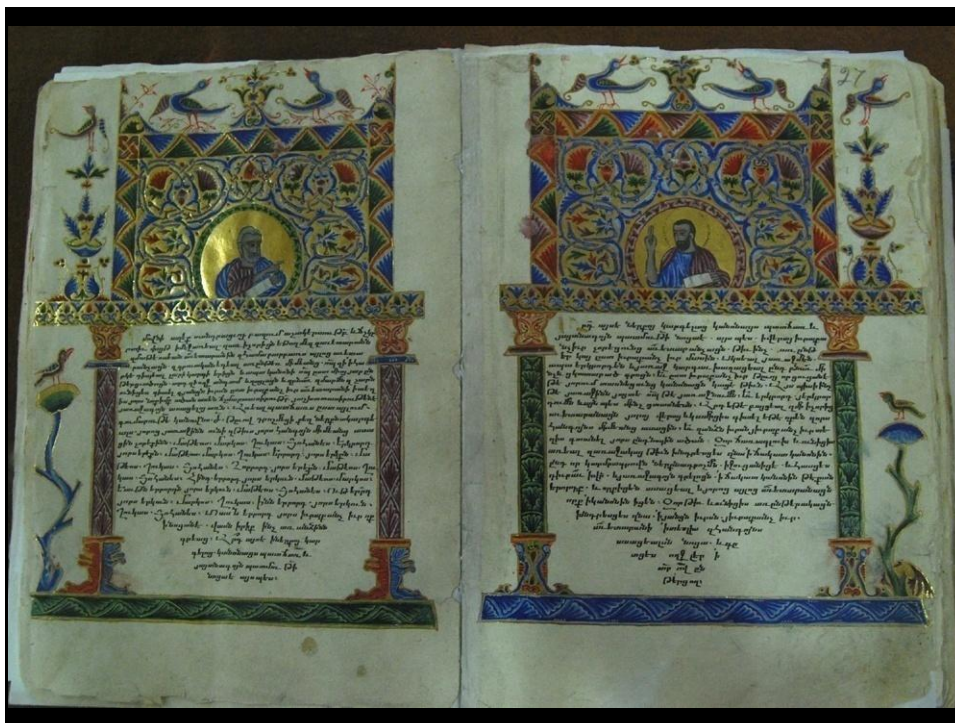




豪華装幀の聖書や聖歌集が。

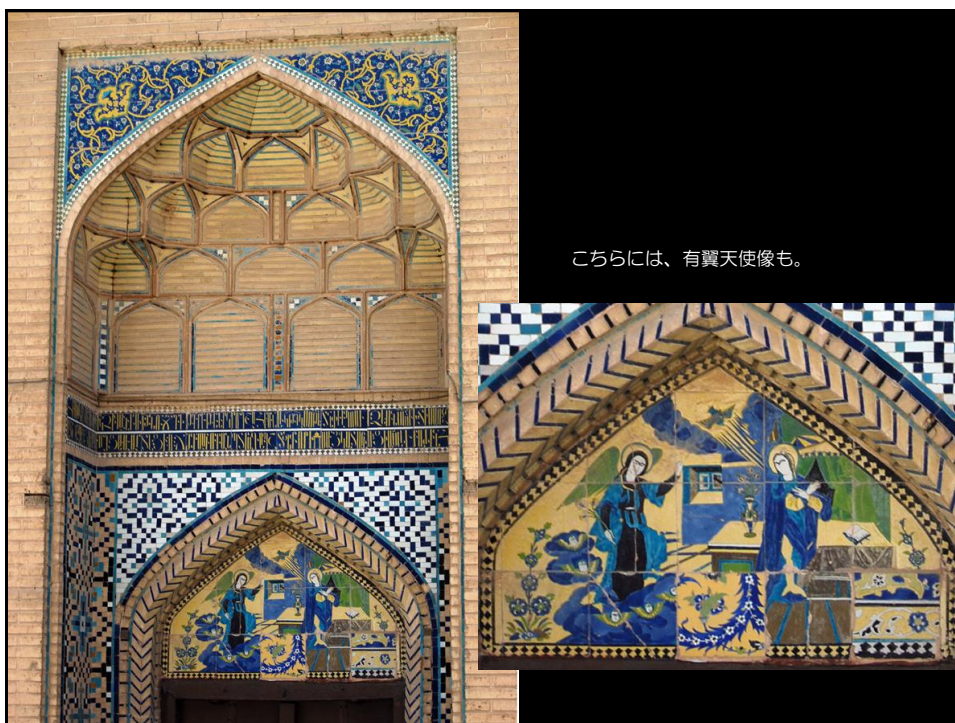






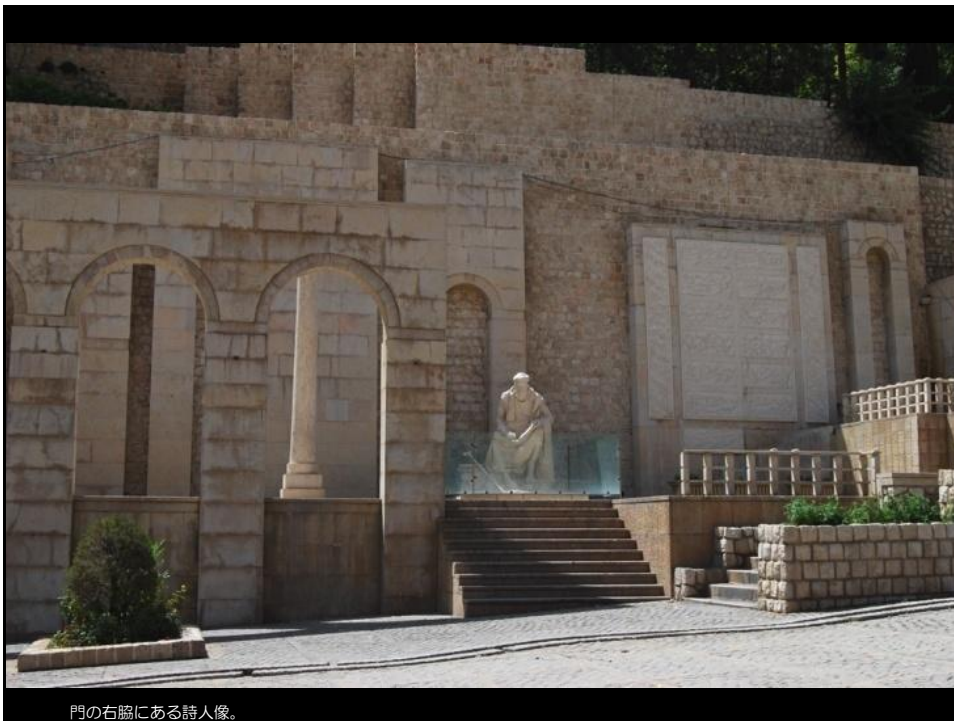


家族一行で刊行の人たち。イランでは、家族の結束が重んじられ、核家族化は考えられない。

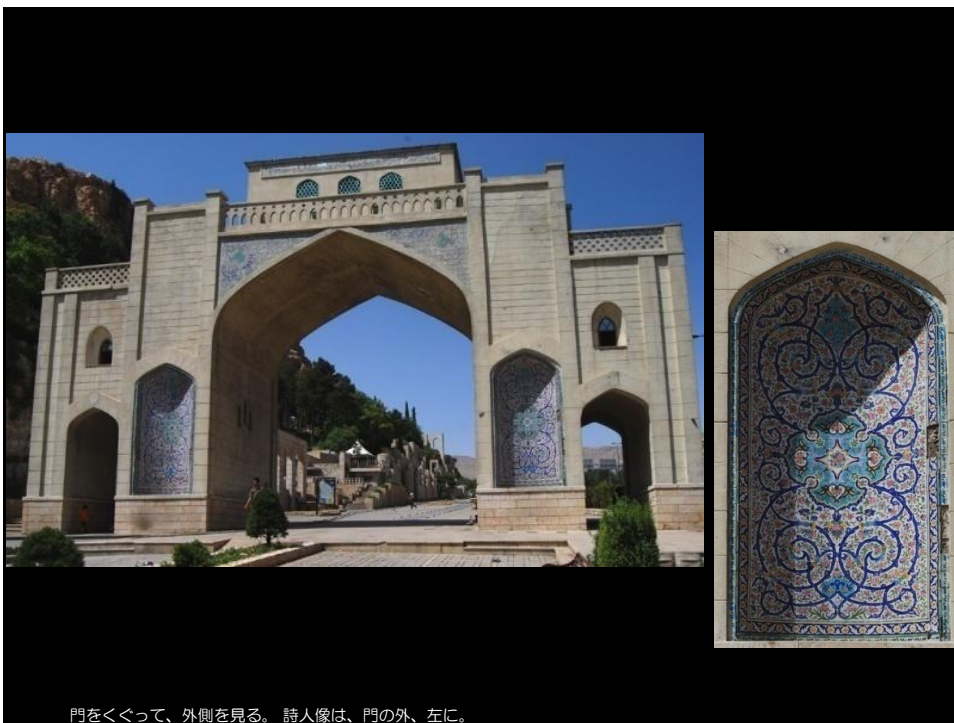


こちらには、有翼天使像も。

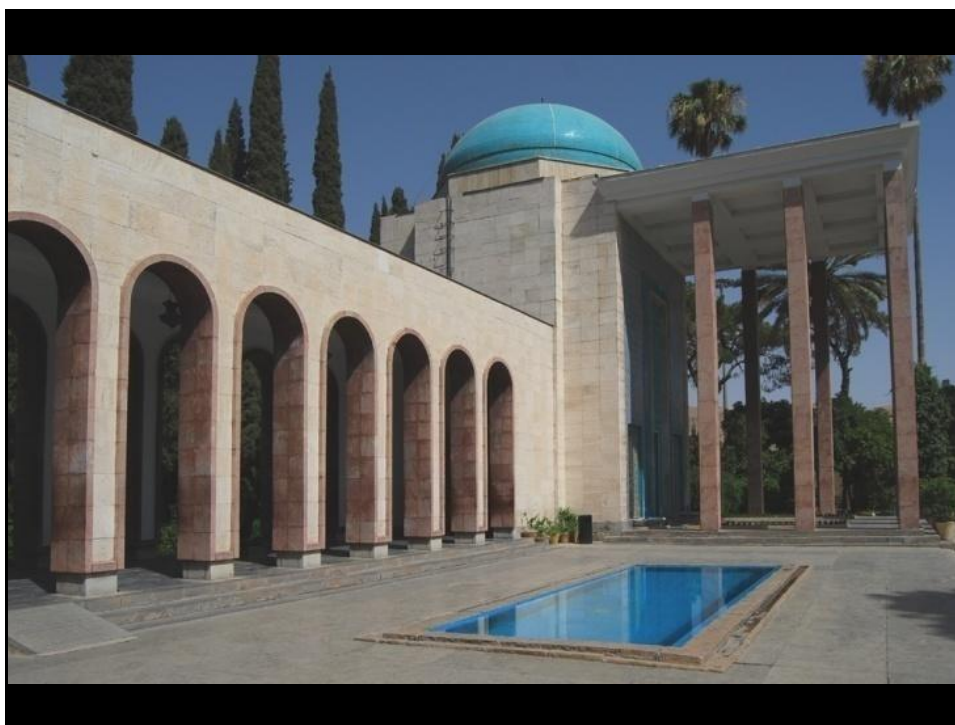




門の右脇にある詩人像。

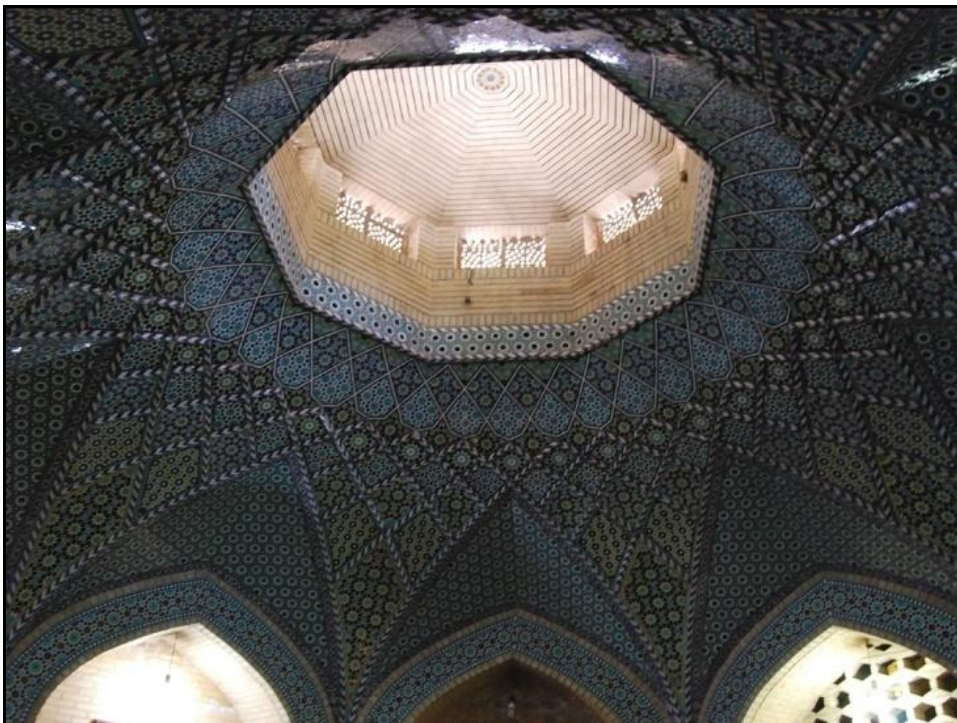


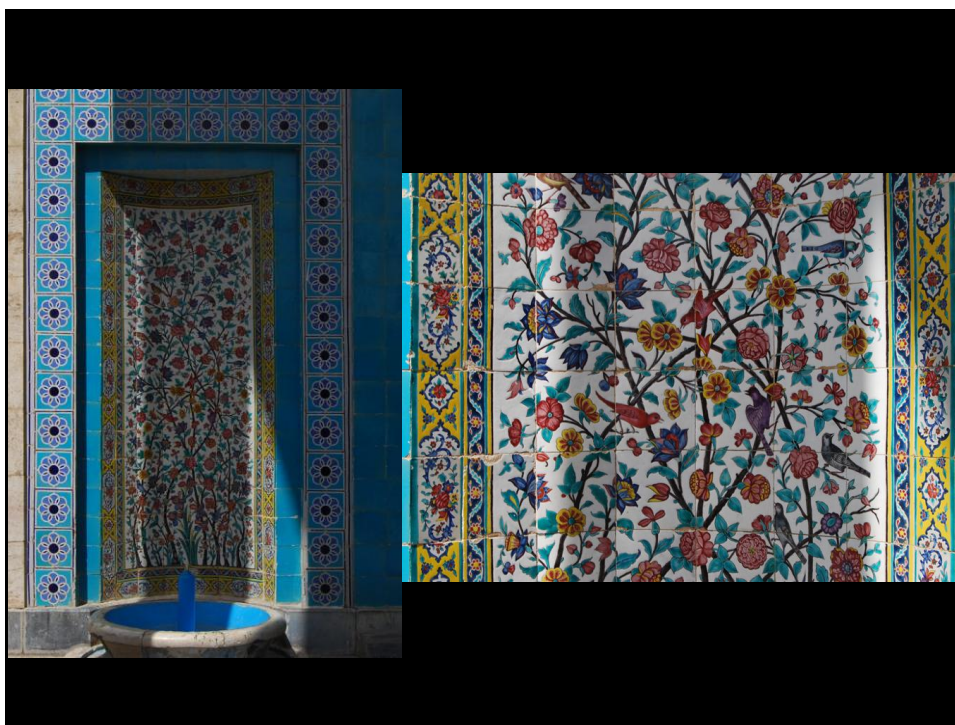
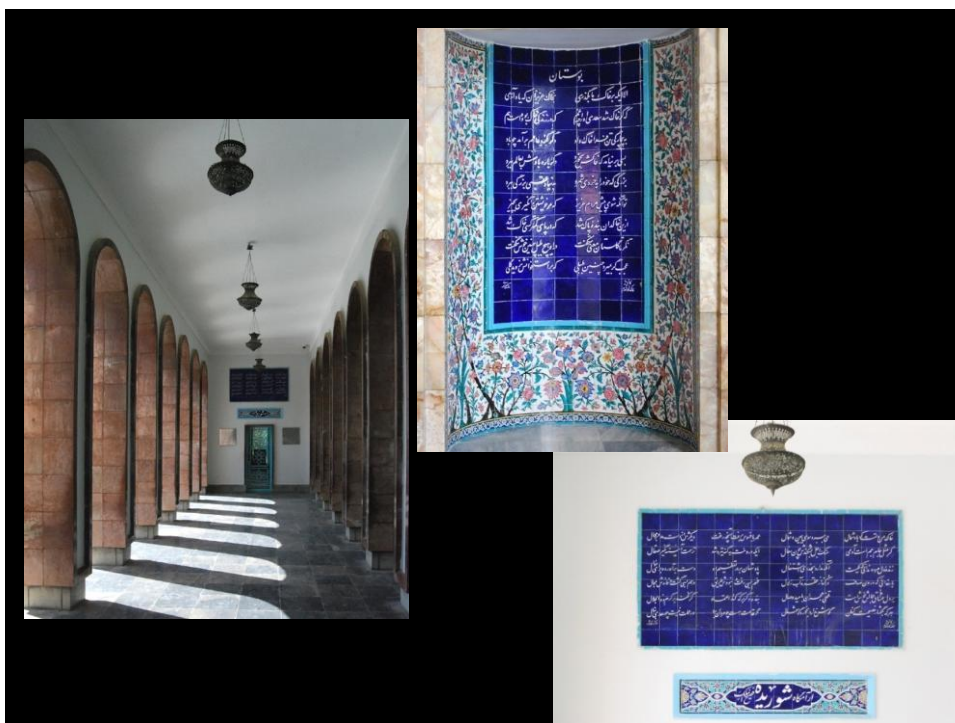
門をくぐって、外側を見る。詩人像は、門の外、左に。





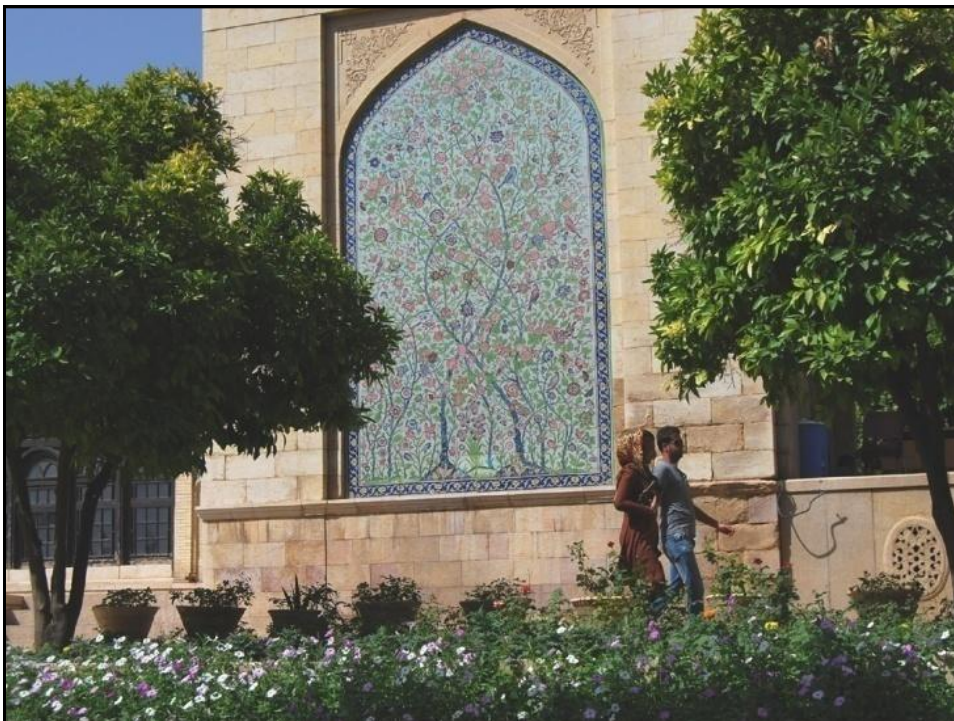
ドーム屋根下の、  
大理石製サアディの棺。

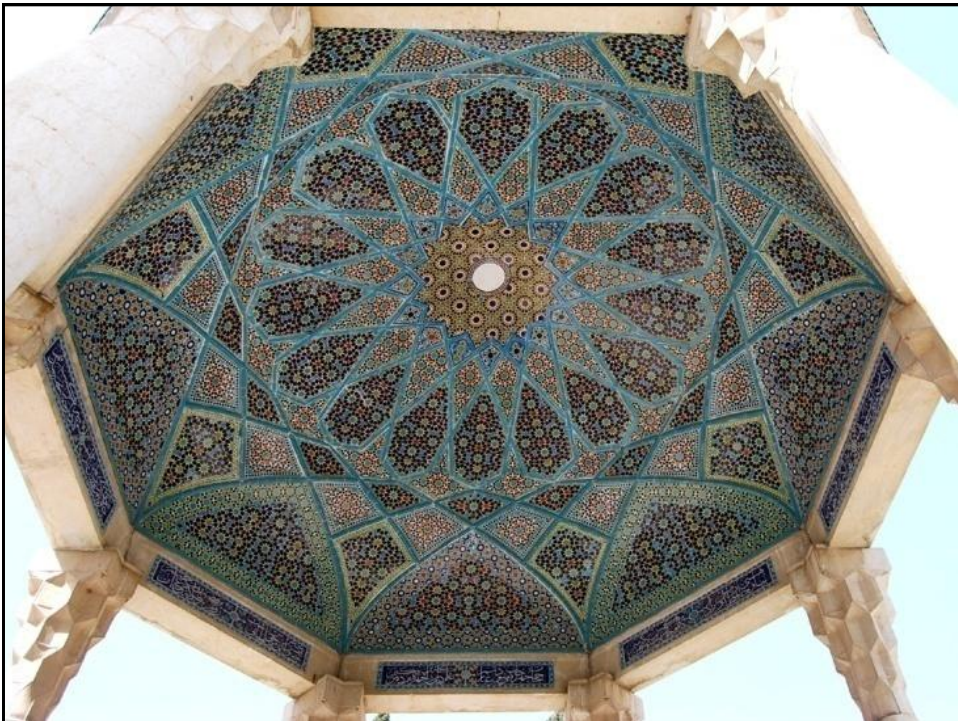






緑が豊かな、ハーフェズ廟。







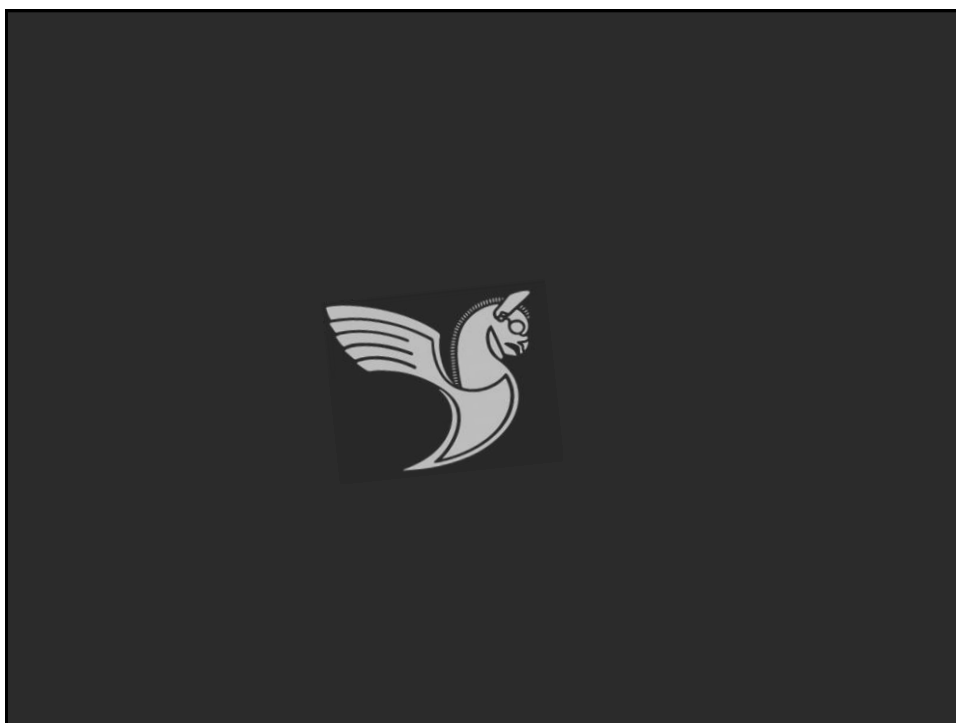
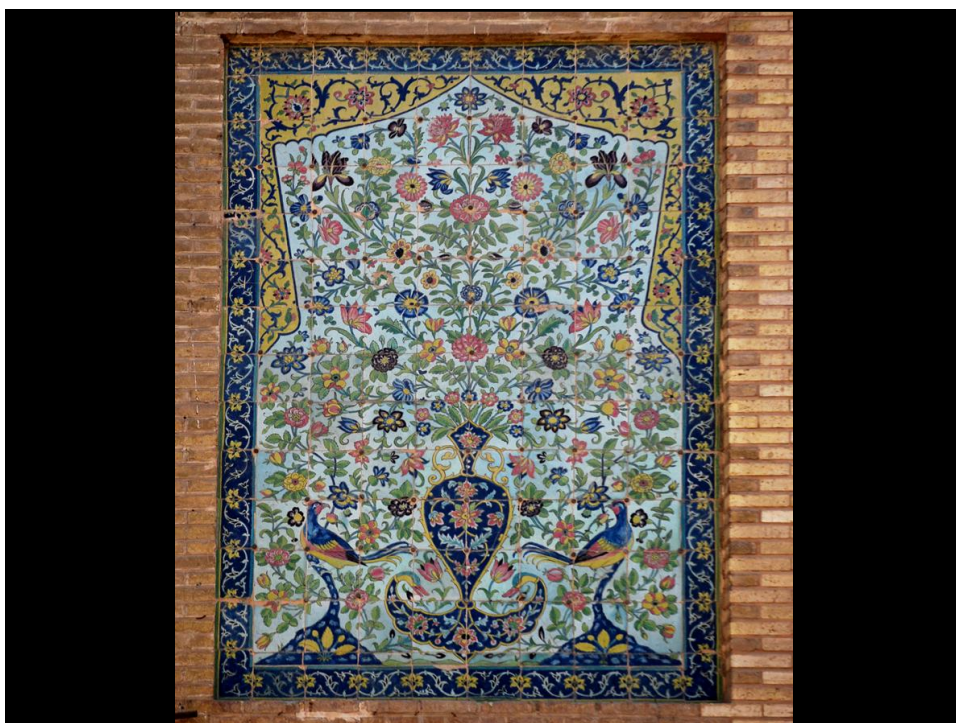
大理石の棺をさすって、詩人を偲ぶ人たち。



ともに詩を語るべき友を待つ。



市内の、キャリムハーン城塞広場近くで、  
建物壁面に見たタイル装飾。



#### ④ -3 アケメネス朝発祥(前6世紀)のハサルガダエ遺跡とキュロス王墓など

ペルセポリスの北東にあるハサルガダエは、紀元前546年にキュロスⅡ世によって建設が開始されたペルシャ帝国の最初の首都。後に、ダレイオス(ダリウス)Ⅰ世がスーサに遷都。

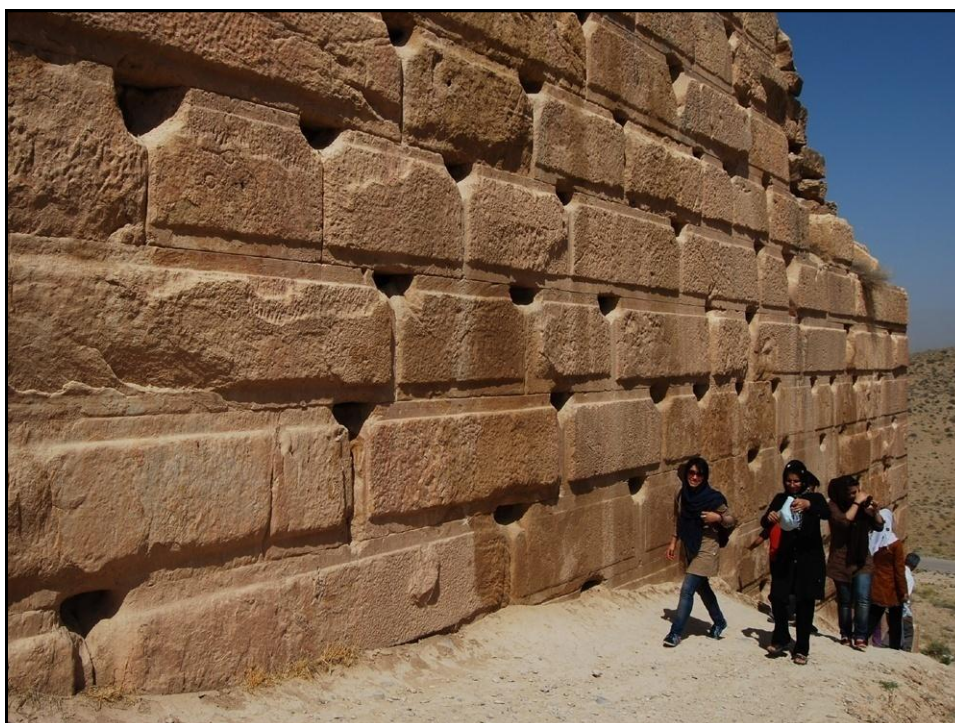
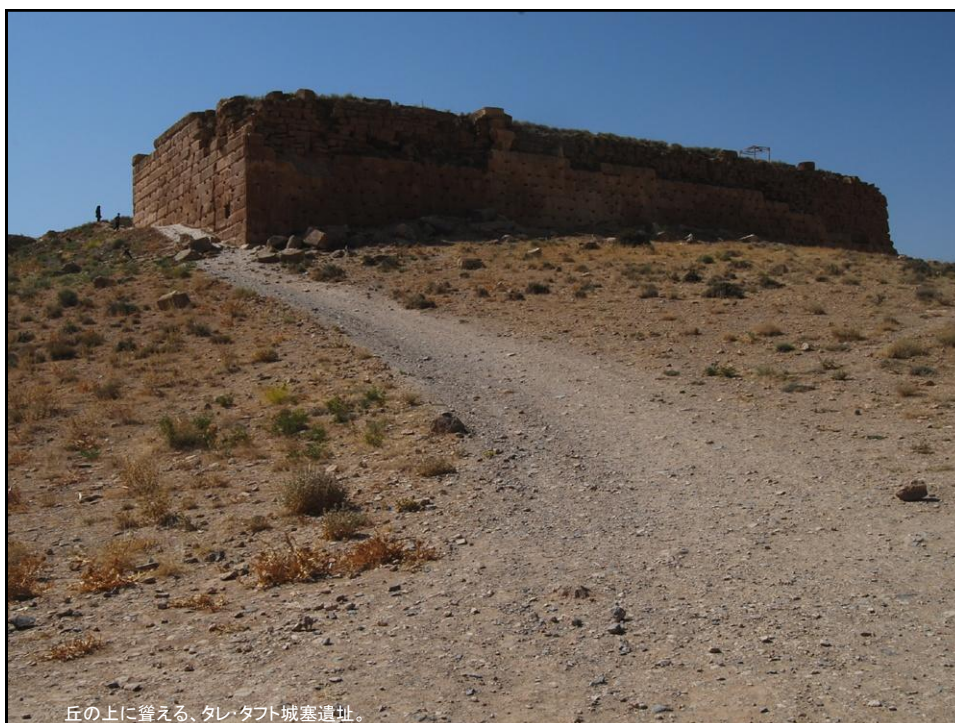


アレクサンダーは、ペルセポリスを破壊した後に、このキュロスⅡ世墓を訪れたとされる。イスラームによるペルシア征服時代、アラブ軍はハサルガダエにたどり着いた際に、遺跡を破壊する計画を持っていた。当時の墓守は、アラブ軍に、これがソロモン王の母を祀るものと説明、信じさせる事によって、破壊を回避した。その結果、墓碑は、クルアーンの韻文に取って代わられて、ソロモン王母の墓として知られるようになった。(ガイドの説明及びウィキペディアにも同趣旨。)



キュロスⅡ世の墓と伝えられる。墓室は上部に。



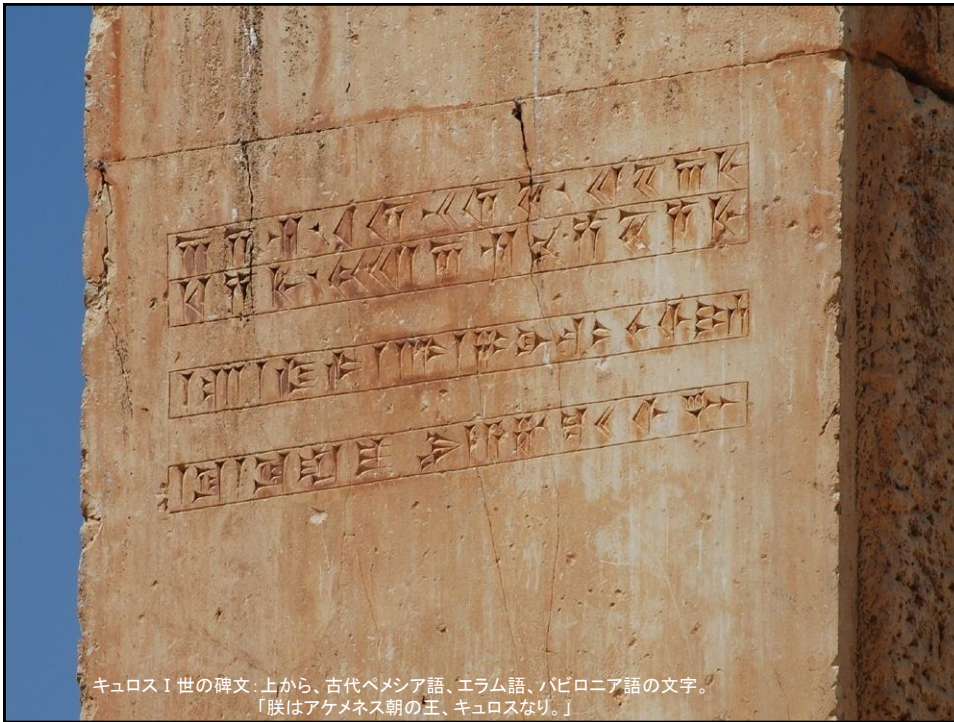


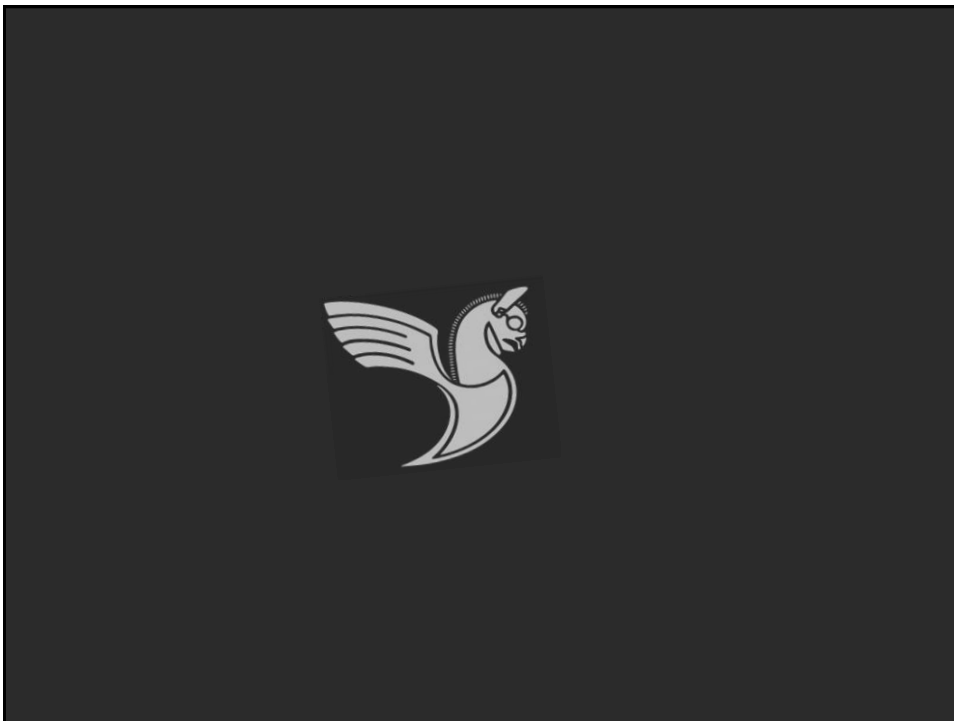


パサルガダエは、ダレイオス(ダリウス) I 世がスーサに遷都するまでの首都。









④ -4 アケメネス朝(前6~前4世紀)とササン朝(3~7世紀)のナグシェ・ロスタム遺跡 など



(英版ウィキペディアより。)

ペルセポリスの北方にある巨岩の遺跡、ナグシェ・ロスタムのパノラマ写真。

岩壁にはアケメネス朝時代の王墓や、ササン朝時代のレリーフ(浮き彫り)が刻まれている。  
付近にはナグシェ・ラジャブもある。(10数ページあとに紹介。)

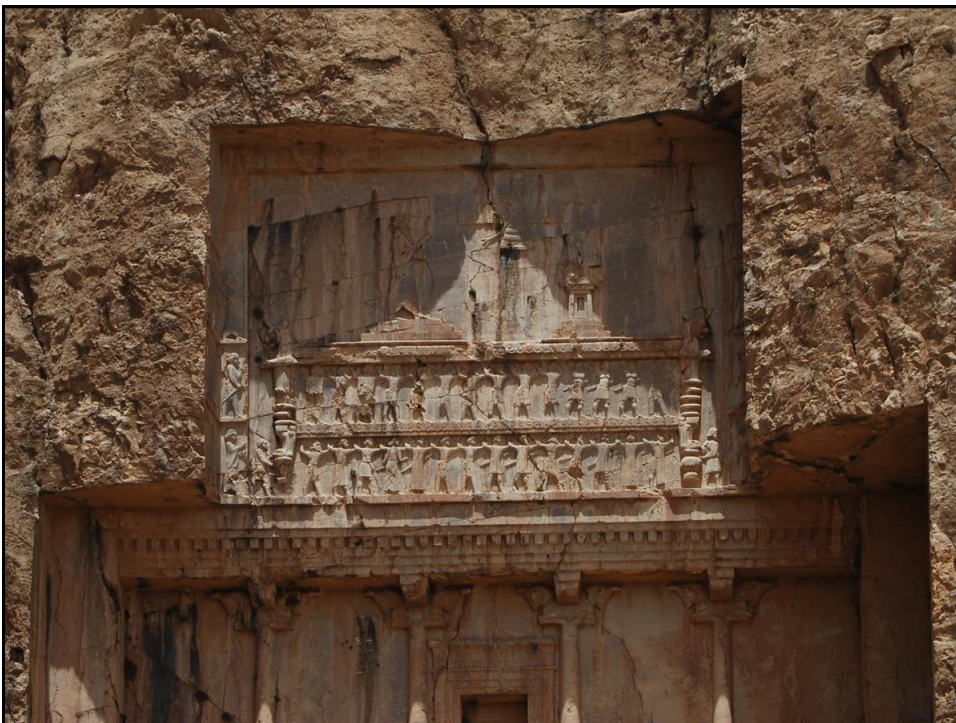
4つ並んだ墓は、右から、クセルクセス I 世、ダレイオス(ダリウス) I 世(これのみ碑文から確実視)、  
アルタクセルクセス I 世、ダレイオス II 世 と言われている。

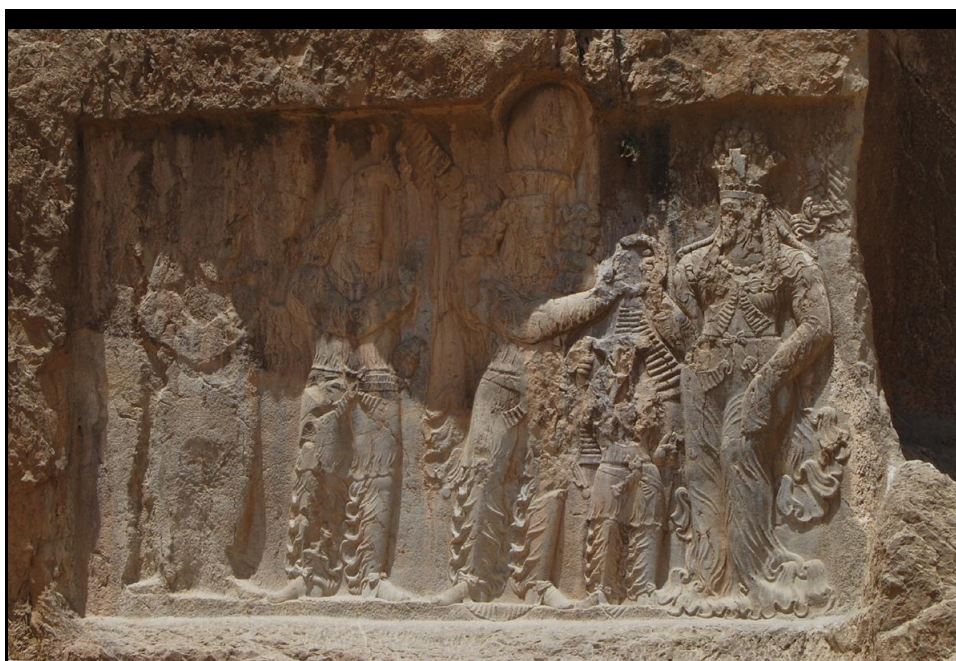
ナグシェ・ロスタムの主要部分



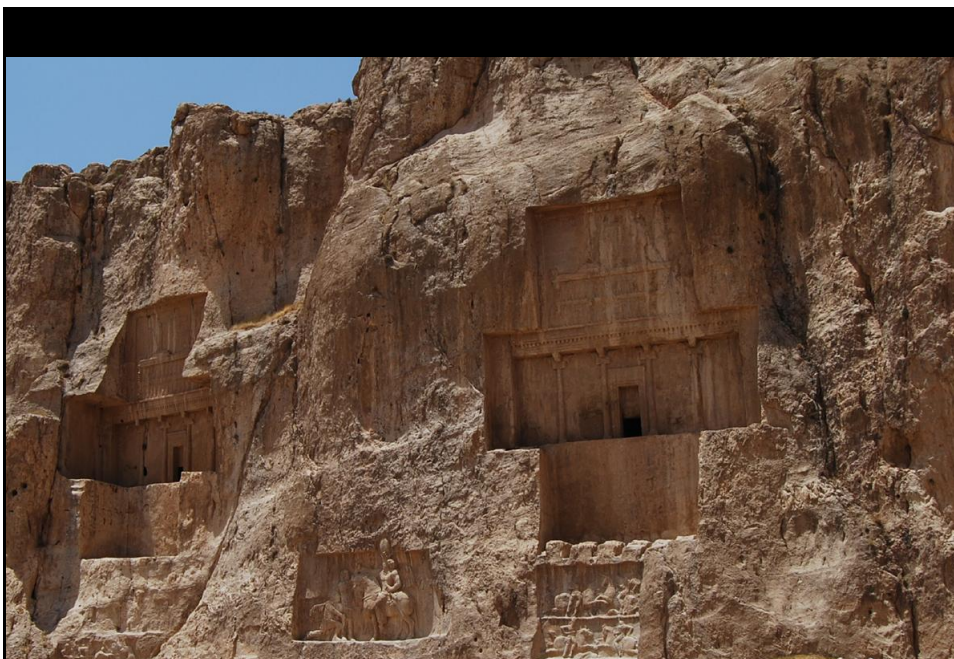
伝承によれば、↑ダレイオス(ダリウス) II 世    ↑アルタクセルクセス I 世    ↑ダレイオス I 世 の墓

以下では、右から順に、形がよく残っているもののご紹介を。最右端には、この写真にはないが、クセルクセス I 世の墓。





ナルセ I 世(ササン朝 在位: AC293~302年)の叙任。  
ゾロアスター教の最高神アフラマズダー神から、王権の象徴を授与される。



ダレイオス I 世の墓(右)と、その下に「バハラム II 世の勝利」レリーフ。その左は「シャープール I 世に降服するローマ帝国ウァレリアヌス帝」レリーフ。左の墓は、アルタクセルクセス I 世。以下、順に。



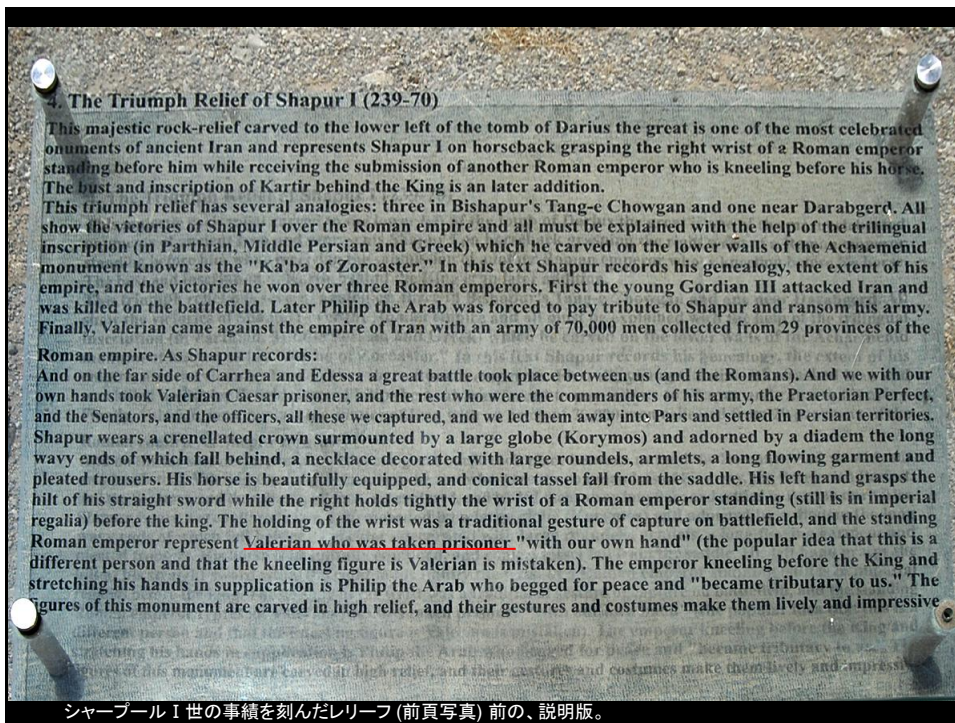
ダレイオス I 世の墓。アケメネス朝ペルシア第3代の王(在位:BC522~486年)で、通称「ダレイオス大王」。



ダレイオス I 世墓の下に彫られた、「ハハラム II 世(在位:276~293年)の勝利」。



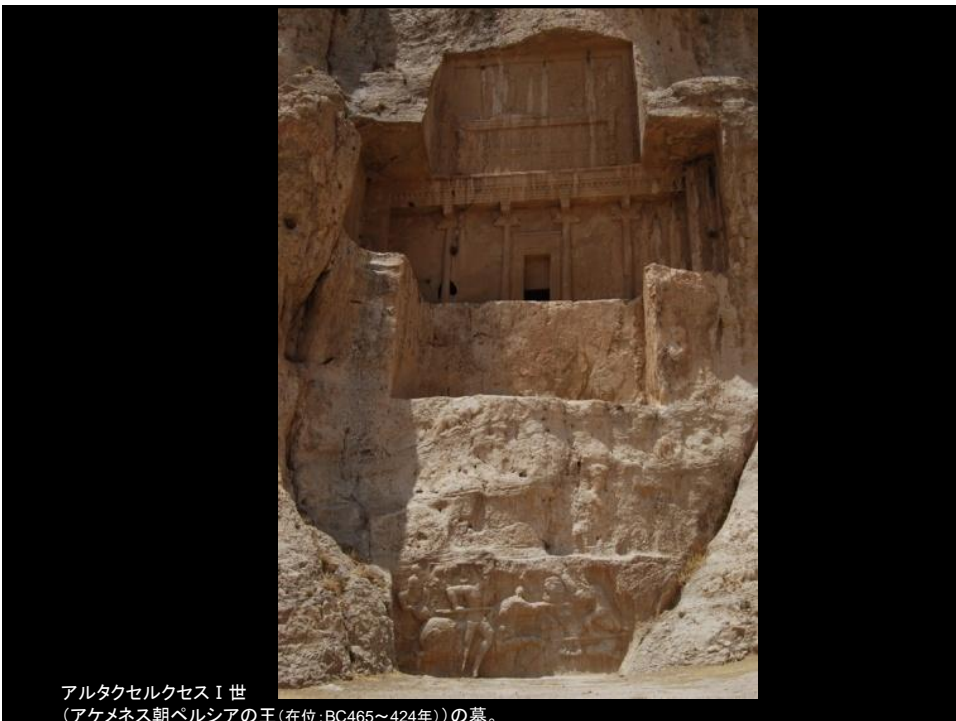
騎乗のシャープール I 世(在位:241~272年と、降服するローマ帝国・ヴァレリアヌス帝(中央との説)ら。  
西暦260年のエデッサの戦い。







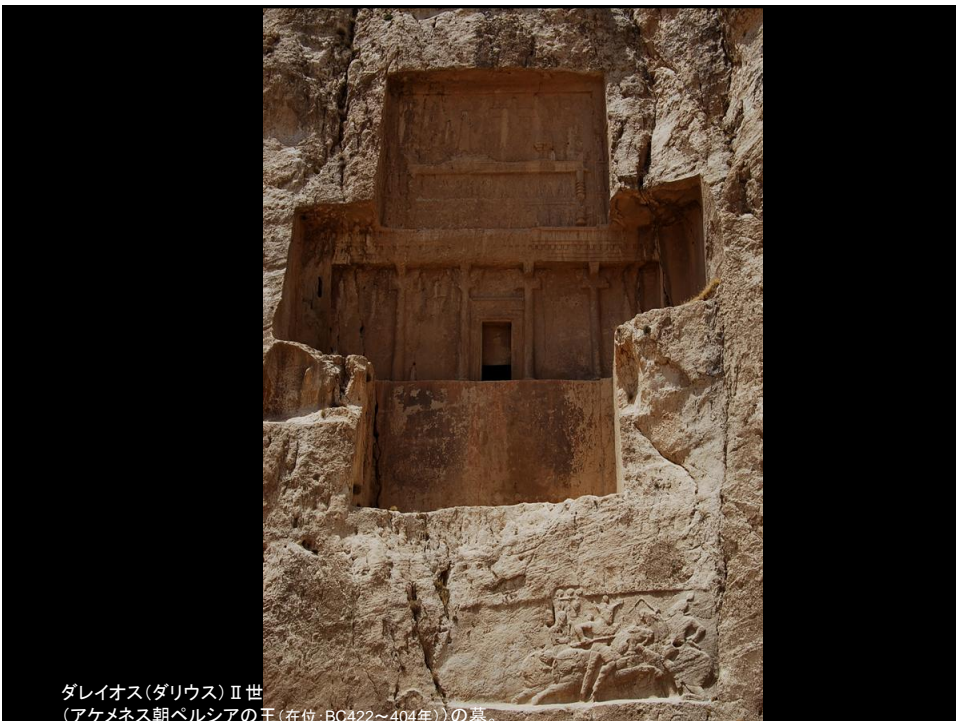
↑ シャープール I 世のレリーフ



アルタクセルクセス I 世  
(アケメネス朝ペルシアの王(在位: BC465~424年))の墓。



アルタクセルクセス I 世墓の下に彫られた、「ホルミズド II 世(在位: 302~309年) の勝利」。



ダレイオス(ダリウス) II 世  
(アケメネス朝ペルシアの王(在位: BC422~404年))の墓。



ダレイオス II 世墓の下に彫られた、「シャープール II 世(在位:309~379年)の勝利」。



**アルダシール I 世(在位:AC226~240年)のレリーフ**

**私見:ナグシェ・ロスタムで一番見事なレリーフ。**

アフラマズダー神から王権の象徴を授与され、ササン朝ペルシアの初代君主(シャール・ハーン・シャール:諸王の王)に。これによって、400年続いたアルサケス朝パルティアの時代が終わり、400年続くササン朝の始まりとなる。なお、アルダシール I 世の後は、子のシャープール I 世(前述)が継いだ。(ウィキペディアなどによる。)これと次ページのレリーフは、前に説明の全景写真の、さらに左にある。



そのすぐ右にあるレリーフ。



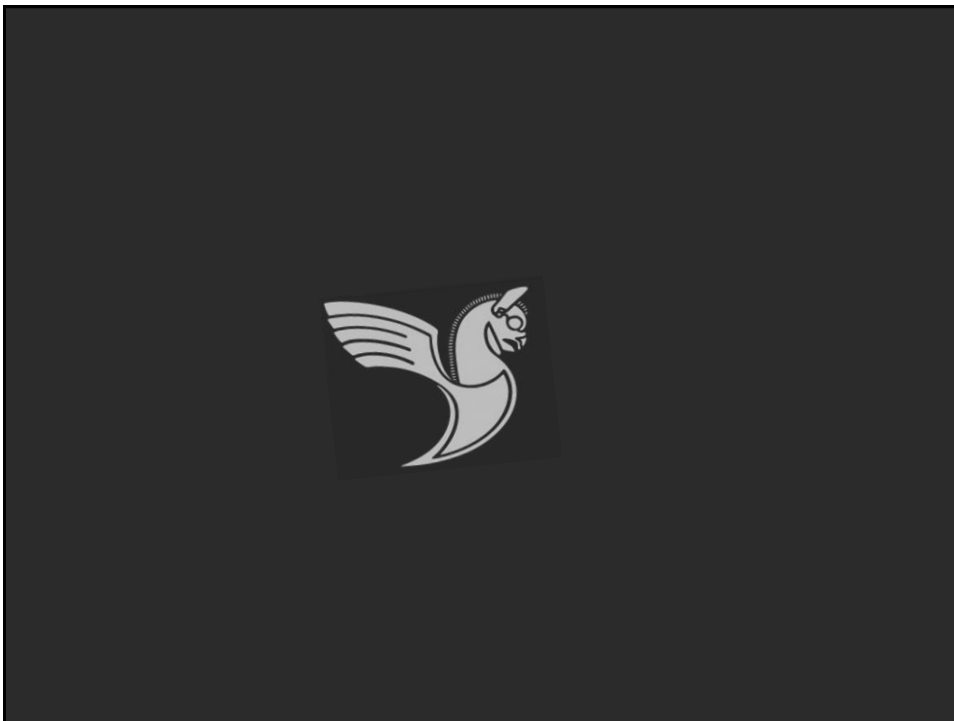
ゾロアスター教の祭壇とも言われる？



ナグシェ・ロスタム、右側に続く岩壁。



ナグシェ・ラジャブ遺跡。(シャープール I 世の行軍。)



④ -5 アラムート城址:ハッサン・サッバーフの城塞で、13世紀 モンゴル軍によって壊滅



テヘランから、高速道路を西北西へ。火力発電所を通過。

6車線高速道路を右へ折れて、ガズビン方面へ。  
(市内へは入らず、途中で2000mの山越え。全線2車線舗装)























山上の平坦部は狭く、ここに、伝承の「地上の楽園」が築かれたとは思えない・・・ あつたとすれば、それは別の場所で、  
ここは、フラグハーンに抗した「暗殺教団」(ニザール派)が最後に立てこもった城址ではないのか？





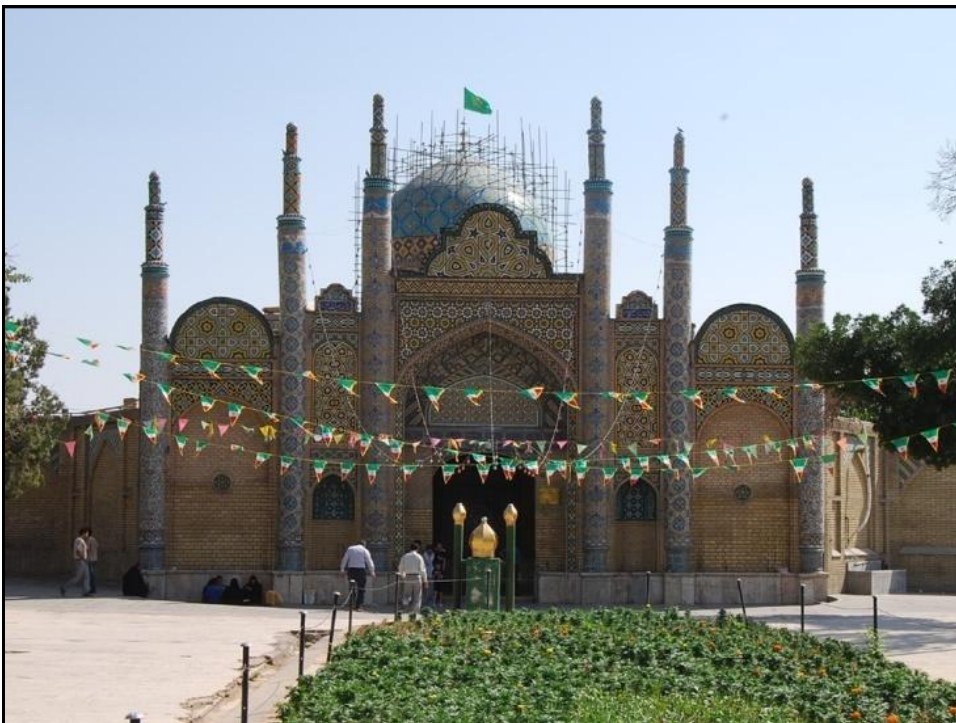


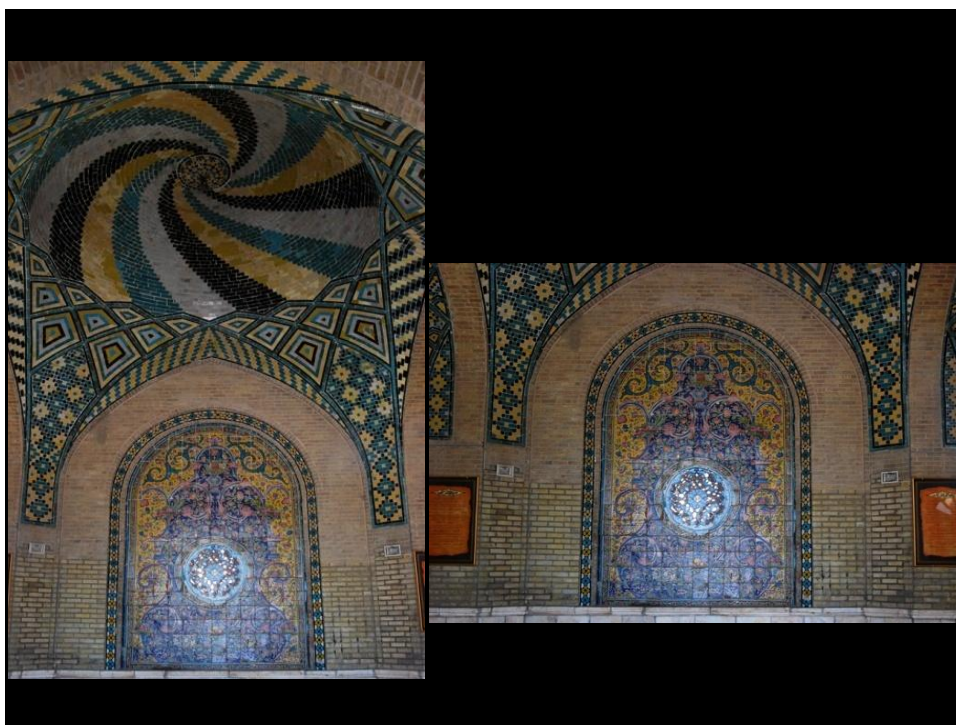


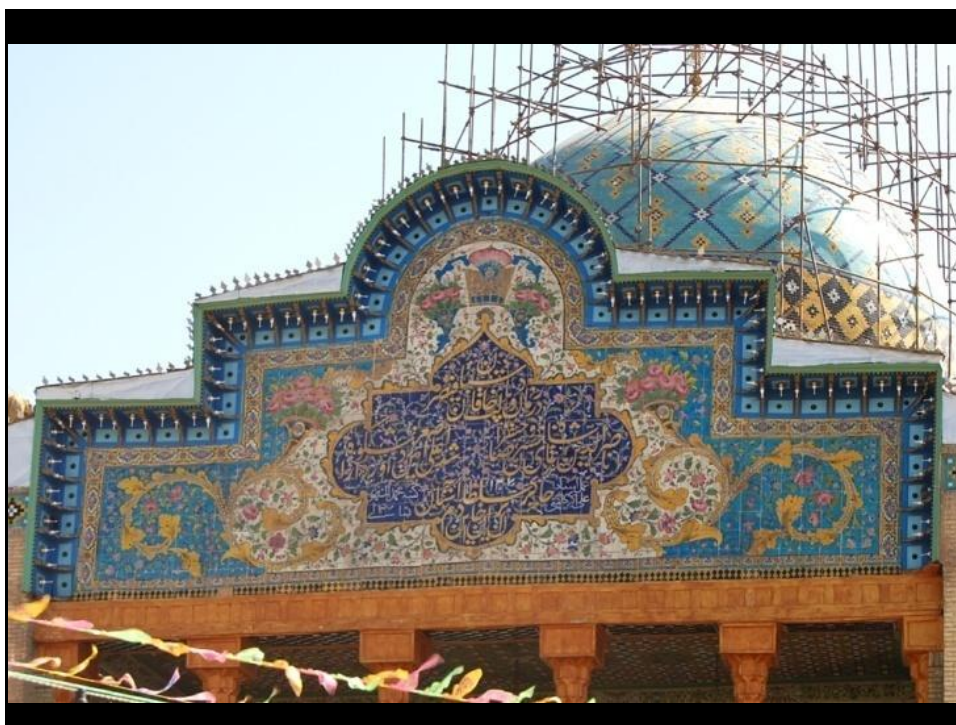
帰路、ガズビン市内へ : サファヴィー朝が16世紀末にイスファハーンに遷都するまで、都としていた。

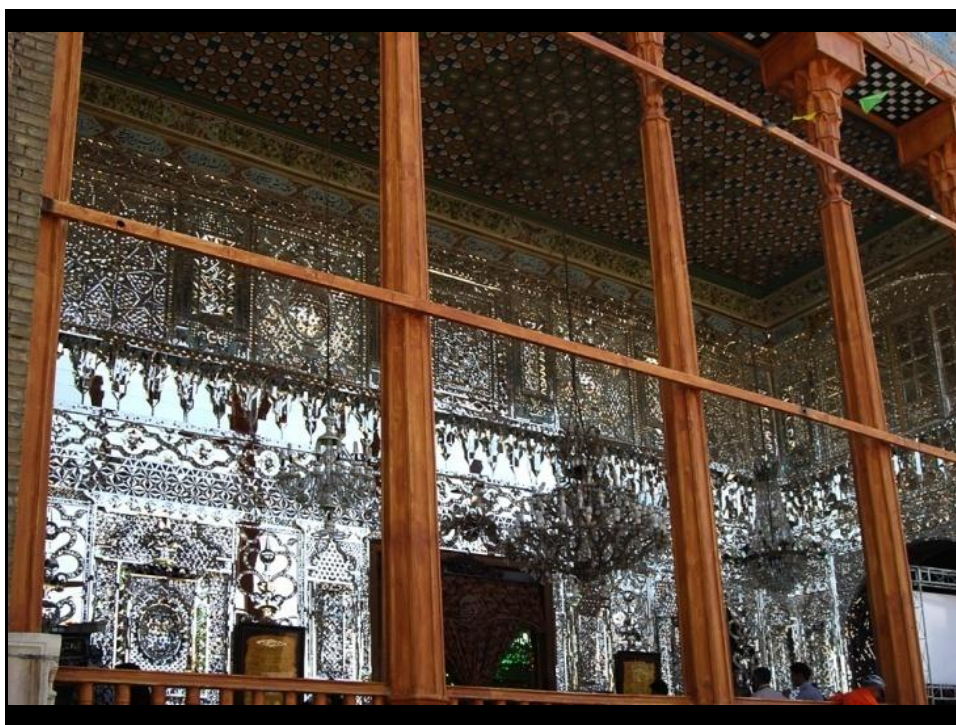












モスクの内外とも、無数の鏡の細片による装飾。



モスクを出たところで、たまたま出逢ったお葬式参列の人々。次ページのように、男女は別。



「イラン(ペルシア)の踏査小史とその自然・人々」史料に見る踏査(調査)小史・地政学的位置。  
最高峰デマバンド山の登頂とその自然、遺跡と人々の写真紹介」



境内にある、イランイラク戦争戦死者の追悼銘板。



ここまで、イランの遺跡紹介

最後に、イランの人々の日常・街の様子